

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄の歴史とオモロ (第6回資料展)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学附属図書館 公開日: 2024-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002020759">https://doi.org/10.24564/0002020759</a>

# 仲原善忠

## 文庫貴重資料展

「沖繩の歴史とオモロ」

平成十年十一月二日～十一月十三日

特別講演：池宮正治教授「仲原善忠の沖繩研究」十一月七日（土）午後二時より

琉球大学附属図書館

# 目次

仲原善忠と仲原文庫について…… 池宮正治 1

琉球大学蔵「仲原善忠文庫」展示資料紹介  
(解説文協力者)  
池宮正治、金城正篤、高良倉吉、阿波根直誠各氏  
…………… 3

仲原善忠文庫沖縄関係主要図書目録…… 16

仲原善忠略年譜 …………… 27

仲原善忠文庫受入経過概要 …………… 31  
(図書館年報1966年所収)

編集後記 …………… 展示委員会 33

# 仲原善忠と仲原文庫について

法文学部教授 池宮正治

仲原善忠は明治23(1890)年沖縄県仲里村真謝に生まれる。沖縄県立師範学校を経て広島高等師範学校本科地理歴史科に進み、卒業後、静岡師範、青島(チンタオ)中学の教諭を歴任した後、上京して大正13(1924)年私立成城第二中学の教諭となる。翌年には同学園高等学校の教諭となる。同僚と謡曲(うたい)を稽古するようになったのもこの頃で、その前の青島中学にいた頃は俳句会に加わり、「幽月」という俳号も持っていた。当時としては珍しくヤマト社会に深く馴化していたらしい様子が伺える。

成城学園は当時として異例の、いわば自由主義の教育で、入学試験もなく、ただ入学に耐えられるかどうかを見定める口頭試問、今でいえば面接だけで入れた。その新入の学生30人を持ち上がりで受持ち、7年一貫教育して、結局2人が家庭の事情で転校し、残りの28人中23人が大学を卒業した。その内訳は、東大が9人、京大が8人、東北大が3人、9大が2人、私大が1人である。そしてこれらの人々は、大学教授6人(博士3人)、研究員2人(博士1人)、官吏2人、会社員7人(技師・課長級)、記者1人、会社重役2人、戦死者3人、合計23人だったという。仲原善忠という教師が如何に優れた教師の資質を持っていたか知る好例である。詳しくは『仲原善忠全集』第3巻所収「旧時代の新教育」を読まれることをおすすめする。この中の「Z先生」はいうまでもなく善忠先生のことである。この時代の教え子の一人中村哲氏は後に法政大学総長になり、法政大学に沖縄文化研究所を設立した人である。もう一人の教え子加藤一郎氏は東大総長になっている。まさに多士済々といったところで、この時期、教育者としていかに充実した時を過ごしたか、詳細は仲原善忠先生が自ら回顧した上の文章に明らかである。

またこの時期、教育書も幾つか出している。大正13年成城学園に入った年には児童図書叢書として『日本外交史』を出版したのを手始めに、昭和3(1928)年『日本漂流奇談』、昭和6(1931)年には『世界地理精義』、翌年には『理法探求日本地理精説』を出している。それに昭和3年5月から翌年5月にかけて文部省の委嘱をうけて、欧米各国を歴訪して、地理・歴史の教育を視察している。つまり当時でいう地歴教育の方面で、仲原先生が当局からも期待されていたことを物語っている。

仲原先生に一つの転機が訪れたのは今次大戦だった。昭和14年には成城学園の本職および兼職を辞めて非常勤講師となっている。先生が生前小生に語ったことによると、先生の専門の地歴が軍国教育の台頭で正確に教えられなくなったからだ、ということであった。翌年には弟の善秀氏と共に『久米島史話』を著している。これは、新発見の「仲里旧記」や「具志川間切旧記」「君南風由来并位階且公事」といった、久米島の根本資料を駆使して、久米島の太古からの歴史を、問答体で記述したもので、沖縄本島つまり琉球の歴史との整合性をもとめながら、島に伝わる説話などを読み解いたものである。

これは仲原先生のいわば沖縄(琉球)研究に対する自己紹介でもあり挨拶状でもあって、これを境に沖縄研究に没頭することになる。

しかしながらその助走はもう少し遡る。昭和11年には久米島在住の善秀氏から島内某所から発見された「仲里旧記」が届けられ、翌昭和12年には沖縄研究の泰山北斗であった伊波普猷の蔵本から「君南風由来并位階且公事」を自から筆写し、13年には善秀氏が筆写した「久米具志川間切旧記」が届けられている。丁度この頃仲原先生は伊波普猷とも交流していて、『伊波普猷全集』巻10には、昭和14年の元旦、伊波から仲原先生へ宛た書簡が収められている。「おもろさうし」巻21の久米島おもろ97番歌について質問をしたのか、このおもろについて、繰り返しの省略した部分を補ったうえで、省略した部分が「長く伝承していくうちに」「落ちたに違いありません」と言っている。その上「一」「又」記号も消して通し番号をうっている。おもろ研究は、昭和の6、7年頃から沖縄在中の島袋全発や世礼国男らを中心に研究が進められていて、「又」記号が「展読法」といって、繰り返し部分の省略したところを復元して「読み展いて」読むべきことを提唱していた。仲原先生は「新おもろ学派」と呼ばれたこれらの人々と共鳴するところが多かったので、伊波の懇切な書簡をどのように受け取ったであろうか。おもろさうしの巻21の久米島のおもろが、巻11に照らして錯簡の多いことを整理して示したのが「かかり糸ーおもろさうしの基本的研究第一集」(昭和18年、ガリ版、私家版)である。戦後は柳田国男の激賞を受けたという「セジの信仰について」を発表するとともに、「文化沖縄」に「おもろ評釈」を連載し、これがまとめられて『おもろ新釈』となる。

仲原善忠先生の生涯の仕事の大要は、沖縄タイムス社から刊行された『仲原善忠全集』全4巻(1978)に見ることができる。これを読むと、仲原先生がヤマト琉球の文化史に対する深い洞察を基底にして、原始から現代までの琉球・沖縄の歴史を明快に考察していることがわかる。仲原文庫は、伊波を主流とする沖縄研究を批判的に継承して現在の我々に受け渡した研究者の、思索の元となったいわば原料倉庫でもある。仲原文庫を省みて仲原学を再考する機会にしたい。

## 琉球大学所蔵「仲原文庫」展示資料目次

仲原文庫の展示資料は本学教官の池宮正治教授によって選定して頂き、解説は本学教官の金城正篤、高良倉吉、阿波根直誠各教授によって協力作成した頂きました。それ以外は図書館展示委員会で解説を作成し、さらに池宮正治教授によって加筆修正して頂きました。

### 展示資料名

1. 重刻中山伝信録  
じゅうこくちゅうざんでんしんろく
2. 琉球小話：詩の国夢の国 (教育学学部教授 阿波根直誠氏解説)  
りゅうきゅうこはなし うたのくにゆめのくに
3. 琉球漆器考  
りゅうきゅうしつぎこう
4. 琉球訳賛美歌  
りゅうきゅうやくさんびか
5. 万次郎漂流記  
まんじろうひょうりゅうき
6. 君南風由来并位階且公事  
きみはえゆらいならびにいかいかつくじ
7. 久米仲里旧記  
くめなかざとぎゅうき
8. 久米具志川間切旧記  
くめぐしかわまきりきゅうき
9. 琉球年代記  
りゅうきゅうねんだいき
10. 本琉球内仲里間切人数改帳(法文学部教授 高良倉吉氏解説)  
ほんりゅうきゅうなかざとまざりにんずうあらためちょう
11. 琉球重要樹木誌  
りゅうきゅうじゅうようじゅもくし
12. 琉球談  
りゅうきゅうわなし
13. 旧藩中租税徴収二関スル事項  
きゅうはんちゅうそぜいちょうしゅうにかんするじこう
14. 算用栞：古琉球算法書  
さんようはらい こりゅうきゅうさんぽうしよ
15. おもろ新釈  
しんしやく
16. おもろのふし名索引  
なさくいん
17. おもろさうし
18. 奉使琉球始末 草稿之一部(法文学部教授 金城正篤氏解説)  
ほうしりゅうきゅうしまつ そうごうのいちぶ

## 1. じゅうこくちゅうざんでんしんろく 重刻中山伝信録

092.4

徐葆光著 皇都 橘屋嘉助 6冊 26cm

蘇門先生句読 平安 欄園蔵板 和紙

初版は1721年(康熙60)刊。1719年に尚敬王の冊封使として来島したときの使録。その自序によれば「命を奉じて康熙58年(1719)6月に琉球に来て、翌年2月まで約8ヵ月も滞在したとある。その間、その制度礼儀から、風俗に至るまで見聞し、疑わしいものは除き、確実なものを残して、海行針道から、封宴諸儀にいたるまで図で示し、これを6巻にまとめた。これによって、「中山伝信録」と名づけた。1巻は、封舟・乗組の員役・舟の針路・往復の航海日誌、定更法・風信・天妃靈応・諭祭神文などについて、2巻は、天使館・中山先王廟(崇元寺)・諭祭・中秋重陽の宴について、3巻は中山の世系、4巻は琉球三十六島・琉球地図・紀遊、5巻は琉球の官制と氏族・土地制・学校・暦など、6巻は琉球の風俗・家・家屋・日用器具・市場・武器・物産・月令(がつりょう:毎年定めて行なう政令を12ヶ月に区別して記録したもの)について、最後に琉球語について字母・語彙をのせている。日本本土でも板本として江戸や京都で出版され、琉球に関する知識を広く伝えるのに役立った。本書「重刻」版は明和3(1766)年京都で出版されたものである。(島尻勝太郎氏執筆論文「中山伝信録」:沖縄大百科事典所収参照)

## 2. りゅうきゅうこばなし うたのくにゆめのくに 琉球小話：詩の国夢の国

049

稲垣国三郎著 大阪 盛運堂 1934(昭和9)年初版

321p 13 × 19 cm

著者稲垣国三郎(1886～1965)は愛知県三河郡の生まれ。岡崎師範卒。「教育学」の文検合格。愛知県の小学校、広島高等師範附属小学校の訓導を経て1917(大正6)年1月30日、沖縄県師範学校教諭兼附属小学校主事として赴任。沖縄在任中は附属小で国語教育(一種の生活に基づく綴り方教授)を中心に、比嘉永元らと共に教授方法論を研究し指導して多くの子弟に単なる教育方法面のみでなく、人格的にも深い影響感化を与えた。さらに訳あって1924(大正13)年3月沖縄を離任し、岐阜そして大阪の小学校長に転じてからもなお沖縄をこよなく愛し続けた。「当時、本土からきた指導者の多くとちがって、教え子や父兄との精神的結びつきをこころがけた」(『沖縄の百年』第一巻)と言われるように、ウチナンチュの足を引っ張るところか、親身になって沖縄出身の教師をはじめ、教え子たちを心から支援し、戦後は沖縄の復帰運動にも本土側から積極的に参与した。ただ、復帰を見ずして他界したのが惜まれる。

本書は、稲垣が病弱な母親を郷里に残してはるばる沖縄へ赴いた頃の諸体験をもとに、凡そ十年後、今は亡き母に捧げたエッセー風の琉球案内ともいべきもので、琉球の地理・歴史・伝説・風俗・芸術・宗教・人情等と幅広い。今日すでに凌駕された面もあり、

限界もそれなりに認められようが、しかし、今なお確実に沖縄の心に温かく触れる素材も多いのではないだろうか。「いろいろの素材のえらびかたには、沖縄的な心情というものに対する愛情のところが、一貫してながれていた」(『沖縄の百年』第一巻)からである。当の稲垣自身は謙虚に執筆趣旨の一端を次のように述べている。「片々たる此の小冊子を以て、琉球の真実相を闡明(せんめい:開いて明かにする)することは到底出来ない事です。しかし貧弱な本書によって、少しなりとも、琉球の古典的な素朴な床しい姿が判り、其の情趣を汲み、或は何等かのヒントを得、或は南島に関心を有つ人が出たならば此の上ない幸いです」と。ちなみに、本書で深く印象に残るものの一つに「白い煙と黒い煙」がある。それは稲垣が名護での教育部会主催の講習に招かれた時に実際に体験したエピソードである。1917(大正 6)年春三月、講習会の合間のひととき、稲垣は附属小の比嘉永元に近くの名護城の丘を案内された。名護の町と名護湾が眼下に眺望できる一大パノラマに感動した稲垣の目に留まったのは、そこで何やら松の小枝を集めて焚いている一組の老夫婦の姿であった。白い煙が一条立ち昇っている。山焼きが、炭焼きが、不審に思いその老夫婦に尋ねると、二人は遥かに沖を指さしながら、「あれに娘がのっています。大阪へいくのです」と。なるほど、一隻の汽船が黒い煙を吐いて沖を走っている。「遠いところへ参りますので、またの逢う日は何時のことやら。何とかして那覇の棧橋まで見送ってやりたいが、それには二十里の山坂を超えねばならず、逆(とて)も此の年齢では及びもつかぬことです、、、」「いよいよ今日の午後 5 時に出帆するとの電報が参りました。それで今この煙によって、私どもの居所と無事を知らせて居るのでございます。ご覧下さい。あの汽船に娘が乗っております。」

沖縄は第一次大戦後の不況期から、さらに大正末期の「ソテツ地獄」期を経て昭和初期の恐慌期へと厳しく変容していく。稲垣がソフトに指摘する「親子の惜別の情」の背景にはその時代への認識もあったであろう。間もなく、いわゆる紡績関係女子工員、その他の出稼ぎ、移民が頻繁に故郷を後にしていく頃であった。

このエピソードは、昭和初期になって、山形県米沢出身の早稲田大学教授、五十嵐力博士編集の中等学校国語検定教科書(『純正国語読本』または『純正女子国語読本』)などに「白い煙と黒い煙」と題して掲載され、当時全国的にもかなり知られたという。沖縄では県立第三高等女学校(名護)などでも使用され、地元だけに極めて深い感銘を受けたという当時の女学生の証言(宮城ハル)もある。また、奇しくも去る沖縄戦直後、6・3・3 制前の 8・4 制下、初等学校八年生の「ガリ版刷り教科書」には、上記検定教科書と違って、もっと本書の原文に近いかたちで採用されたことも注目されよう。

戦後、1959(昭和 34)年 12、稲垣は久々に名護に招かれ、「白い煙と黒い煙」記念の石碑建立除幕式に参列した。そこは、ほぼかつての老夫婦の焚き火の場所(前記宮城ハルの実家の旧屋敷跡)で、名護城への中腹。石碑のデザインは琉球大学教授安次嶺金正(故人)によるもの。なお、1972(昭和 47)年、本書の「再版」が沖縄文教出版より発刊されたが、副題、内容、仮名遣い等に若干相違のあることを付記させていただきたい。



(教育学部教授・阿波根直誠)

\*参考文献: 新里金福、大城立裕共著『沖縄の百年 第一巻 人物編 近代沖縄の人びと』、琉球新報社編 太平出版 1969 年。沖縄大百科事典刊行事務局編『沖縄大百科事典』 沖縄タイムス社 1983 年。名護碑文記編集委員会編『名護市碑文記』(増補改訂版) 沖商印刷所 1997 年。その他。

### 3. 琉球漆器考

752

石澤兵吾著 東陽堂 明治 22(1889) 全 1 冊(10p)

図版 25 枚 15 × 27 cm 沖縄県庁御蔵版

琉球漆器は古来琉球に中国から伝えられた製法によって製作されたもの、改善された製法によったもの、新たに発明された製法によったものがある。石澤兵吾が時の知事、福原実の命を受けて、首里王府貝摺奉行所から引き継いだ漆器の図案や仕様帳(技法などを記述)などの書類を整理して、編集・発行した古文献。1712 年、尚益王の晩年から 1888 年(明治 21)に至るおおよそ 180 年間に係る優良品を模写して収録した。黒塗沈金の重箱、貝摺の卓、黒塗蠟色貝摺の酒台、貝摺の八角食籠、推錦の丸形東道盆、その他優雅なものが多い。収録された図案は 70 点余におよび、それぞれ製作年代や名称が付されている。(中山盛茂編「琉球史辞典」及び沖縄大百科事典参照)

### 4. 琉球訳賛美歌

196.5

新垣 信一 編 糸満町 ゴスペル社 1950

41 p. 17 × 21.5 cm

本書の序文(牧師 與那城勇氏序言)によると「琉球訳賛美歌を刊行した理由は現在の沖縄に於いて、普通語の賛美歌はその意味を理解することの出来ない人が多いからである。教会の信者も大方この琉球訳の賛美歌や箴言(しんげん:戒めることば)の感化、影響を受けた者である。琉球訳の賛美歌の必要はその土地の事情に依って同一ではないが、一般的に考えてその必要が大いにあると信じる。琉球訳賛美歌集は、故伊波(普猷)文学士により訳されたのを故新垣信一牧師が改訂増補した「琉球語賛美歌」に琉球諺言集を更に加えたものである」とある。故新垣信一氏訳編「琉球語賛美歌」(4 版)の照屋寛範牧師の序文によると〈「琉球語賛美歌」は最初、文学士伊波普猷及び実弟伊波月城等によって訳され、大正の初期、広く沖縄全島に愛唱された、その数は僅かにすぎなかった。大正の中頃になって、新垣信一牧師によって、更に多くの訳と、師自身による新作が出来た。師にはまた、旧訳聖書箴言の抄訳もあって、これらを増補して、大正末期に、師の所属せられる日本基督教青年会によって、改訂版が出版され、当時の沖縄の教会の内外において広く愛唱されたのであるが、箴言にいたっては、教会だけでなく、地方の婦人、青年会などにも愛用された。近年、年を追って、琉球語の使用を必要としなくなったが、琉球語賛美歌には、今もって、沖縄の人の魂に作用多大なものがある。〉とな

っている。

伊波普猷が明治の末期から大正期にかけて啓蒙活動を行った時代(方言による講話も含む)も戦後の初期(1950年代)の頃も沖縄ではまだ沖縄方言が一般大衆に根強く浸透していたことが伺える。

## 5. <sup>まんじろうひょうりゅうき</sup>万次郎漂流記

291.9

16 p 18 × 12 cm 和紙

本書は表紙の題名は「万次郎漂流記」となっているが、本文の冒頭に「大日本土佐国漁師漂流記」で肥前長崎(今の長崎県)鈍通子記録となっている。

内容はハエ縄漁中、暴風雨で土佐沖から遭難し、鳥島に漂着、アメリカ船に救助され、アメリカ及びハワイでの事、最後は漁師仲間の2人の兄弟(他の漁師は1人はハワイに残り、1人はハワイで病死)と琉球を經由して郷里の高知に帰郷、万次郎が母と対面するまでの説明文である。説明文の前に絵入りで①鉄砲を持ったアメリカ人、②アメリカの蒸気船、③ハワイ(本文ではフア国)の田芋、④土佐から漁師仲間と共に暴風雨でさらされる様子、⑤漂着した無人島の鳥島で飢えを凌ぐため、アホウドリ(土佐では「藤九郎：とうくろ」と呼び本書でもトヲクロ鳥と記述)を捕まえる様子、⑥アメリカの漁船に救助のため旗を振る様子、⑦ハワイの港(ホノルル)の絵など彼のスケッチを基にした彩色の絵を入れており、興味深く記述している。

\*ジョン万次郎は四国土佐(高知県)の出身で中浜の漁師であった。天保12年(1841)正月5日、土佐宇佐浦(高知市)から船出した5人の漁師のうち一人であり、万次郎は最年少の14歳であった。ハエ縄漁に夢中になっている中に、急に西北の強風が吹き始め、激しい風雨にさらされ、外洋へ押し流され、8日後に小島(八丈鳥島、西洋ではセント・ピーターズ島と知られ、東京から真南570キロにある火山島)に漂流した。そこで約5ヶ月間、命がけの無人島生活を送った後、アメリカ捕鯨船ジョン・ホーランド号に救われた。船長はウィリアム・ホイットフィールドで、やがて万次郎は船長に気に入られ、英語を覚えるかたわら捕鯨の手伝いもした。船乗り仲間から船名の一部を取ってジョン万次郎と呼ばれるようになった。船長もこの好奇心の強い少年を私塾(通称オックスフォード・スクール)に入れて教育を受けさせた(日本人のアメリカ留学生第1号である)。万次郎はそこで小学生に混じってABCから英語の勉強を始めた。その後、公立のスコンチカットネック・スクールと呼ばれた学校に転校する。さらにそこを卒業するとアメリカ東海岸の捕鯨基地ニューベッドフォード港(マサチューセッツ州)の近くの町にあるフェアヘブンのバートレット・アカデミーにつれて行き、2年半にわたり高等数学、測量術、航海術などを学ぶことになった。ここでの修学が後日、万次郎にとって図り知れないほど役に立つことになる。やがて万次郎は、フランクリン号で捕鯨航海に出て、日本近海まで近づいたが、郷里の土佐まで行けなかった。その後、さらに漂流仲間(3人)と帰国の計画を立て、上海に向かうサラボイド号のホイットモア船長と交渉して、日本

の最南端の琉球諸島までの合意をとりつけた（1850年12月17日ホノルル出発）。1851年2月3日、沖縄の南端喜屋武岬沖に到着、夜陰に乗じて本船から小船に移り、夜明けを待って南部の摩文仁間切小渡浜（現在の糸満市字大度）の海岸に上陸した。上陸後、万次郎は、翁長村に拘禁され、6ヶ月にわたり薩摩の役人の取調べを受けた。その後、薩摩船で那覇港から鹿児島島の山川港へ送られ、当時開国派として知られた薩摩藩主・島津斉彬の面接を受けたが長崎送りとなった。長崎奉行所の取調べ、踏み絵をさせられて、9ヶ月の拘禁の後、土佐藩で約70日の尋問を受け、郷里高知の中浜で母との対面が叶ったのは翌年の10月だった。その後、万次郎は幕末の動乱期に当り、江戸幕府の直参（以後万次郎は中濱姓を名乗る）となり、軍艦教授所の教授、訪米のための咸臨丸乗り組み、明治政府の開成所教授、ヨーロッパ出張など、開国に当たっての助言者、教育者、通訳として最も知られるようになった。鎖国時代で海外の情報に疎い日本にアメリカでの見聞を正しく報告し、幕府の開国決定の政策に影響を与え、国際的視野で海外思想の啓蒙に果たした万次郎の功績は大きい。（\*大鶴正満氏「ジョン万次郎」及び中濱博「私のジョン万次郎」参照）。

## 6. きみはえゆらいならびにいはいかつこうじ 君南風由来并位階且公事

092.1

「仲原善忠写」 昭和12(1937) 22枚 29cm 和

伊波普猷蔵本より仲原善忠写が筆写したものである。

「君南風由来」は唐紙22枚の写本で、原本には奥書が欠けているため、編集の由来及び年次を直接に知ることはできないが、康熙42年(1703年)に久米島の具志川間切役場で書き上げたものと推定される。本書の記事に「康熙36年(1697)おゑか地一役地一八石余安堵被成云々」とあり、それ以後の記事らしきものはない。同45年(1706年)編集の女官御双紙(首里王府)には君南風由来からの抜粋および、その中の重要な「くわいにや(神事歌謡)」がのせてある。

女官御双紙には更に、君南風代合(代替わり)御拝のため康熙45年(1706年)、首里城にきた時の献上物が出ているが、君南風由来にはこれがない。これで康熙36(1697年)から康熙45(1706年)の間に出来たものと見てよい。康熙42年の原本からの複写は故伊波普猷氏の所蔵である。君南風とは久米島のノロ(8人)の上に位置する神女で、具志川間切仲地村の君南風殿内(きみはえどうんち)に住んでいた。(仲原善忠選集下巻参照)

標題の書名は「君南風由来記」と略称することがある。「君南風由来記並び位階且公事」はその君南風の由来・位階・公事について記した文献。君南風の由來說話、八重山征伐の時、首里王府軍を先導した勲功に対する王府からの下賜品、また王府に出向し国王や聞得大君に謁見するさいの儀式作法及び持参すべき土産物、下賜される拝領物、君南風の知行高、君南風殿内の普請修帆補、免夫の人数、籠使用の免許など位階に関する種々の規程、久米島において君南風が管掌する各種の祭祀、仲里・具志川両間切から供出される人数・道具などの公事について記したもので、君南風の職掌や性格、1700年頃

の歌謡の実態を知る上で貴重な文献である。(沖縄大百科事典参照)

## 7. <sup>くめなかがとぎゅうき</sup>久米仲里旧記

092.1

写 [康熙 42(1703)] 47 枚 30cm 和 表紙 奥付なし

仲里旧記は美濃紙 50 枚から成る写本で、昭和 11 年久米島仲里の某家から発見されたものである。表紙も奥書もなく、順序も入り乱れ反古同様のものであった。虫喰いのあとを手がかりとし、琉球國由来記を記載例を参考にして形をととのえたものである。

仲里旧記は琉球王府で「琉球國由来記」編集のため各地方役場に命じ、資料をあつめた時に、久米島仲里間切役場で書きまとめたもので、元禄 16(1703)年のことと推定される。「久米島は沖縄本島の西方 50 哩の所にあり、周囲 13 里、当時仲里、具志川の両間切にわかれ、各九ヶ村ずつからなっていた。間切は現在の村、村は字に当る」。

内容は①城及びそこに祀る「いべ」(御嶽の本殿)の由来、②嶽々の神名、③雨乞い及び浜下りの時のおもろ・くいにや(神事歌謡)、おたかべ言(祝詞)、まぜない言(呪詞)、みせせる(神託)、④村の立始め、⑤年中行事である。②④も重要な資料にちがいないが、③はおたかべ言 24 篇(その内、4 篇はまぜない言である)、まぜない言一篇(実は 5 篇)くわいにや 12 篇を含み、沖縄の民間信仰資料として大切なばかりでなく、上代日本の祭祀研究の上から見ても見逃すことの出来ないものと思う(仲原善忠)

1713 年(康熙 52) 官撰修史である「琉球国由来記」の中の久米島仲里間切(現在の仲里村)に関する部分的事項が、この旧記の内容とほぼ対応しているといわれている。

ぐすく・いべの由来、村立の由来、年中儀礼、嶽々の神々、雨乞、虫除けの古謡などの内容から構成される。この旧記成立の年代及び筆者の来歴などについては、正確に知られていない。久米島の歴史・習俗・祭祀・古謡の研究に一般の貴重な資料である。

## 8. <sup>くめぐしかわまぎりきゅうき</sup>久米具志川間切旧記

092.1

「仲原善秀写」 昭和 13(1938) 33 枚 28cm 和

毛筆書 具志川旧記(間切を省略する)は寛保 3 年(1743 年)の作成で、仲里旧記より 40 年後、具志川間切役場で編述されたことはその奥書で明らかである。美濃紙 27 枚から成り主にこの島按司(領主)の興亡とそれにまつわる伝説を候文で報告している。仲里旧記が韻文の「おたかべ」その他を主とするに反し、具志川旧記は散文の伝説を主とする。前者はこの島の祭祀に重点をおき島人の信仰生活をうかがう資料となるが、後者はその政治的機構を知る好材料で、又前者が古代の部落生活を反映させているのに対し、後者は中世の武力的支配者の興亡を伝えている。具志川旧記の中の按司伝説はこの小島の英雄時代を象徴するものでそびえ立つ古城(具志川城)の跡とともに若い人達の浪漫的精神をやしなう糧となり、かれらは飽きることなくこれらの物語を反芻しつつづけている。それ故、ここに書かれている物語と現在まで口づてに伝わっている物語とほとんど一致している。具志川旧記を編集した動機及びその方法は、奥書に明記してある通り、政府の

命により村役人が物知りの老人にたのみ原案を作って貰い、文章のわかる首里人に添削して貰ったものである。これによると康熙 42 年(1703 年)に一度出したものの補遺として書いたものが今度の具志川旧記である。具志川旧記には異本が一つあった。その書名は「具志川間切旧記并嶽々神名記」となって居り戦前沖縄県立沖縄図書館にあったが戦禍で失われたということである。(仲里善忠選集下巻参照)

## 9. 琉球年代記 付録 琉球雑話

092.9

太田南畝著 杏花園 天保 3(1832) 和紙 30 枚 23cm

内題は〈琉球譚(ばなし)伝真記〉。天保 3 年の琉球来聘(江戸上り)に際して、当時の太平・昇平を祝う意を含めて、南畝の遺稿をその門人たちが刊行したもの。東条琴台の序文がある。内容は「琉球年代記」と「琉球雑話」に大別できる。前項目は『中山伝信録』の中の中山世系を抄書、後項は『琉球国志略』、さらに外国紀行書や聞き書などを材料として、構成されている。(以上横山學氏「沖縄大百科事典」参照)

目次は琉球年譜序 1.年代記並来聘年暦、2.國王の印並花押乃図、3.王廟がくの図、4.首里三大寺の説、5.いしふみの説、6.護国寺不動明王の説、7.波上寺八幡宮の説、8.善興寺天満大自在天神の説、9.天孫神の画像、10.宝剣重金丸の由来並図、11.女子の説並図、12.娼妓歌謡おどりの説並図、13.梅津少将三線伝来の説、14.託女荒神ばらい並図、15.酒の説、16.諳厄利亜人紀行、17.銭の説、18.君子樹の説、19.古郡八郎漂流の話並図となっている。

\*沖縄の三つの公印に記したい。第一級の公印は支那への文書にお「琉球國王之印」、琉球王国内の文書、例えば辞令などにおす「首里之印」、日本向けの文書におす「中山王之印」の三つである。文書の終わりに、中山王尚貞、または尚益と署名、その下におしたのが「中山王之印」であった。

琉球年代記には中山王府の印鑑のことが記載されている「中山王之印」の印と「首里之印」および尚貞、益、敬の花押が出ている。(仲原善忠選集上巻参照)

## 10. 本琉球内仲里間切人数改帳

093.7

道光 4(1824) 5 枚 27cm 和 毛筆書 奥付なし

文政 7(1824)12 月 30 日付けで作成された久米島の仲里間切(現仲里村)の人数改帳の一部。仲里間切は儀間・比屋定・島尻・真謝など 10 の行政村(現在の字)から成っており、番所(間切の役所)は真謝村に置かれていた。村居住の人民すべては 5 世帯ごとに 1 つの与(くみ)に編成されており(5 人与)、与を構成する各世帯はその家族全員の名前・年齢・続柄・宗旨(信仰する宗教)が為政者によって把握されていた。宗旨は全員が便宜上「禅宗」と標記されており、国禁のキリシタンではないことを強調している。人数改めは本来は人口・戸籍調査が目的であるが、宗旨調査に相当する「切支丹宗門改(きりしたんしゅうもんあらため)」と融合しており、人数改帳と称しながら実際は人口・戸籍

・宗旨の全体を把握できる内容となっていた。琉球全体のすべての人民に対して行われたこのような調査は膨大な帳冊の形で首里王府(首里城がその本部)に届けられ、その結果は薩摩・幕府にも報告されていた。標題を見ると、本資料は仲里間切全体の人数改帳であるとの誤解を与えかねないが、実際はその一部の真謝村の分、しかも真謝村も完全ではない。したがって、表題と末尾の報告文はほぼ原本(正確にはその控え)に近い状態であるが、中身のほとんどは失われている。にもかかわらず、現存する人数改帳はごく限られており、史料的高い価値の高い1件といえよう。

(法文学部教授 高良倉吉)

## 11. りゅうきゅうじゅうようじゅもくし 琉球重要樹木誌

650.3

エグバト・H・ワーカー (Walker, Fgbert. H) 著 琉球列島米国民政府 1954 350p.  
21 × 28cm 背表紙

Important trees of the Ryukyu. Naha, United States Civil Administration of  
the Ryukyu Islands.

本書の序文によるとこの企画は1950年に着手され、当時米国軍政府の技術専門家が、琉球における天然資源の経済的発展の為に長期計画の基礎を樹立することに努力した。その目的は困窮の人々に最大限に自給自足が出来るよう、また戦後の食糧不足の時代に、住民のためにアメリカの援助によって実施したものである。当時の琉球森林資源について広汎にわたって調査を行い、特別に価値のある外国産の樹木の輸入は農業及び林業にも自給自足の目的のためにも大変有益だとして、2百種類の最も重要な樹木について、樹木の性質、主用途等の関連情報を詳細に記述している。

## 12. りゅうきゅうばなし 琉球談

092.9

森嶋 中良著 日本橋 東都書肆 須原屋市兵衛  
寛政2(1790) 45枚 15 x 22 cm 和紙

寛政2年(1790)、琉球国王より慶賀使の上京を聞いて、「中山伝信録」、「琉球事略」、「三国通覧図説」を読み、寛政2(1790)9月に著者の森嶋中良が万国新語の遺稿より「琉球の部」を抽出し、1編の小冊としたと記されている。

内容は琉球国の略説、鬼の島へ渡る説、官位並冠服図説、年中行事、剃髪、米蔵之図、駕籠之図、開闢の始附鎮西八郎、日本へ往来乃始、琉球国王の図、元服の事、家作図式、器材図説、馬之図説、女市図説、嚏を好む、琉球の狂言、神紙、葬式、書法、貢物、琉球語、読谷山王子日本紀行の詠歌、婦人及風俗、歌舞の図説、琉球歌、宗派、棺槨並墳、耕作、産物、屏風附いろはの説があり、江戸時代の琉球の風俗が描かれている。

横山學氏によれば「琉球談」は日本と琉球とのかかわりを記した内容や風俗の記事を、読み下し加筆したもので、刊行当時広く読まれた。森嶋中良は平賀源内、大槻玄沢、杉田玄白などの文人諸者たちと親しく交わり、雅名を数多く有した文筆家。代々幕府の侍

医を務めた蘭医で、オランダ人など外国人との交渉もあった。(＊横山學執筆「琉球談」：沖繩大百科事典所収参照)

### 13. 旧藩中租税徴収ニ関スル事項

345.2

明治 27(1894) 1 冊 表 1 枚 28cm 和 奥付なし

本書は明治 27 年 10 月 14 日、知念間切地頭代 新里善三郎が旧藩の慣習法に熟達した方々に是非、是正して頂きたいという趣旨が記載されている。

内容は旧琉球藩における租税の賦課徴収及び決算、検査等であり、琉球藩の官員があり、役人の配置等が記されている。所帯方、給地方、用意方の 3 局に分け、それぞれに物奉行(長官)と吟味役(次官)をおき 3 局は統合して物奉行方と呼び評定所(ひょうじょうしょ)に属する。物奉行所とは首里王府財政を執行する役所で、他藩の勘定奉行と同じ。物奉行は三司官に直属し、①所帯物奉行、②給地物奉行、③用意物奉行があり、それぞれの管轄区域を明確にしている。①所帯物奉行は国の収支に関することを扱い、帳主取・筆者・相附筆者・仮筆者・足筆者(たしひっしゃ)がいて、②給地物奉行は諸氏給与と旅費を扱い、中取以下筆者があり、③用意物奉行は緊急でない事業、国家財政に関することを扱い、中取以下筆者がいて、各配下の諸座諸蔵を支配する①所帯方の管轄は銭蔵(現金取扱い等)、取納座(年貢諸上納)、米蔵(年貢米受払)、田地方(農務全般)、仕上世座(しのぼせざ)(薩摩への上納物取扱い)、宮古蔵(両先島の年貢取扱い)があり、②給地方の配下には用物座(唐大和への用物品取扱い)、高所(たかじよ:石高や外国船の取締り)、勘定座(帳簿点検)、船手蔵(官船仕出)、給地蔵(給地関係の品物取扱い)、救助蔵(救助米取扱い)がある。③用意方の配下には大台所(奥向きの料理方)、料理座(国王公界向の料理方)、山奉行所(杣山支配)、砂糖蔵(砂糖取扱い)、用意蔵(臨時用意の品受払い)がある。(渡口真清執筆論文「物奉行」:沖繩大百科事典所収)

租税制度等、王政時代の制度を明治 12 年の廃藩置県後も沖繩では明治政府による統治を容易にするため、士族を優遇するため旧慣温存政策が取られ、旧慣諸派制は 1910(明治 43)年まで存続した秩禄制度まで含まれ、長期にわたって住民に犠牲を強いる結果となった。

＊琉球藩：1872(明治 5)年 9 月から、沖繩の廃藩置県の 1879(明治 12)年 3 月までのおよそ 6 年半にわたる琉球の呼称。

### 14. 算用秘：古琉球算法書

419

須藤利一編 古典数学書院 昭和 11(1936)

75 枚 24cm 和 ガリ版

序文に著者が昭和 10 年に八重山地方旅行中入手した八重山数学書の一つで旧藩時代の税法であった人頭税(にんとうぜい)に関する具体的実際的問題が大部分を占めている。

算法は直接間接に当時の内地から学習されたものであろうが、この場合殊に八重山地方の地方色が強い。八重山地方の地方（ぢがた）算法書は一般に算用稜（さんようはらい）と呼ばれていた。数学史的には勿論、文化史的特に経済史的にも興味ある文献であろうと著者は述べている。実生活に直接必要な数学を内容すると云っても一般庶民は初歩の計算術すら学習しなかった時代であって、実用数学は主に間切又は村の吏員—例えば勘定座、仕上座（しのぼせざ）の吏員がその職業的手段として学習したに過ぎなかった。

古来、琉球に於いて版行された数学書があるのかまだ詳しくわからないが、需要の少なかった当時、実際版行した事は殆どなかったと見てよいであろう。

島津統治下に始まる定期地割制度に関連して先島（宮古・八重山）に行われた税法は、一間切（まぎり：現在の市町村）一村（現在の字）を一単位としたとした人頭税であった。毎年定額の貢租を各間切・村落に割当て、各村民は共同責任として更に各個人割当額を負担した。従って人口の増減は直ちに各人の負担額に影響したのである。而して各村民の負担額は、村位及び人位により一定の比率が行はれ、村に年齢による上・中・下・下下の4段階による区別が存在した。

計算には珠盤を使用した。珠盤伝来と一般流布の時期は慶長以後と思われるが、確証はない。これ以外には庶民間にバラ（藁）算が使用された事があるが、旧藩時代に入ってから、バラ算は暦日数量の記録にのみ使用された。（須藤利一）

## 15. おもろ新釈<sup>しんしやく</sup>

911

那覇市 琉球文教図書 昭和 32(1957) 479 p 地図 19 cm

おもろ新釈は昭和 32 年仲原善忠の手によって書かれた本である。「おもろさうし」は沖縄の古謡をあつめた貴重な文献として、広く知られている。それは、この地方の歴史、言語、宗教、民俗、芸能等あらゆる分野にわたる、魅力的な資料を豊富に貯えた秘庫の覗がある。明治末期、伊波普猷が、はじめて、その解明に着手し、その成果を「古琉球」その他の著書、論文で発表、ようやく学界に注目されるようになった。伊波普猷はまた、「おもろ選釈」をあらわし、つづいて「校訂おもろさうし」を刊行されたので、その解明も少しずつ前進していった。対して仲原善忠は戦後雑誌「沖縄文化」に新釈のおもろを発表しつづけ、これをまとめたものである。（中山盛茂編「琉球史辞典」参照）

## 16. おもろのふし名索引<sup>なさくいん</sup>

911

東京 沖縄文化協会 昭和 26(1951) 48p. 図版 7 枚 25cm

これは、ふし名を 50 音順にならべて番号をうち、これをグループングして「曲種」でくくり、そのグループ内のふし名の相関関係を、ふし名の所在、出所の巻数番号で示し、備考にはそのグループのおもろの数を示している。文字通り検索の便に供した「索引」であるが、初心者にはかならずしも便利なものとは言えない。なぜなら、この索引



は、おもろのふし名全項目 551 のうち 301 しかあげていない。「索引」に記載されていない他の 10 項目で検索する場合、きわめて不便になるのである。しかし、グルーピングの根拠となる所在と出所の関係は、一部を除いて正確に提示してあり、この面の研究をする場合貴重である。仲原はその「あとがき」で、ふし名の概説をしている。「おもろ双紙に出ているふしの名は約 300 あるが曲は 120 程度で、実際はそれよりもっと少ないと思う」とし、「(おもろのふし名の...以下略)本流は三味線歌となって今日の音曲となったものと想像される」とのべて、三線曲との関連を示唆している。(本学法文学部教授池宮正治氏論文「おもろのふし名ノート」琉球大学国文学論集第 2 1 号所収より参照)

### 17-1. おもろさうし 1～22 巻(12 冊)

099.1

琉球王府編 12 冊 26cm 和 毛筆書 年代不祥

おもろは奄美、沖縄二群島の島々の古謡で、これを記録編集したのが「おもろさうし廿二巻である。記録は平仮名を主とし、きわめてまれに平易な漢字をまじえる。歌の数は 1552 首、重複を除いた実数は 1249 首である。歌の対象物の地域的ひろがりを見ると奄美、沖縄は勿論のこと、宮古、八重山、北は鎌倉、京都、南は遠く南蛮諸国、唐(中国)と東南アジアの全域に及んでいる。おもろの起源は明かではない。「おもろさうし」は大体 12 世紀から 17 世紀までの 5,6 世紀間の歌謡の集積といえよう。「おもろさうし」22 巻のうち第一巻は尚真王の中央集権から約半世紀の 1531 年に(中国元号:嘉靖 10 年)編集された。第二巻は薩摩の島津氏の琉球入後間もない 1613 年(尚寧王)に、第 3 巻から 21 巻までの 19 冊はさらに 10 年後の 1623 年(尚豊王)に編集された。第 14 巻と 22 巻は編集年月日の表示がなく、前者は「いろいろのえさおもろさうし」と言い、舞踊のためのものであり、後者は「みおやだいらおもろ御さうし」で王家の諸祭礼の時に唱うため全巻から抜粋したもので、特殊の用途のために別に編集されたものであろう。原本は 1709 年(尚貞 41)首里城火災のさい焼失、翌年再編纂が行われた。現存のおもろさうしの末尾に「尚益王の命を受けておもろさうし二部を書き写し、一部は城中(尚家本)に、一部は注をほどこしおもろ主取(安仁屋本)に保存させた」と記されている。〈尚家本〉は巻 2,9,15,19 の 4 巻を失い、安仁屋本から写して補っている。尚家本は現存する最古のもので県立博物館所蔵、国指定重要文化財になっている。〈安仁屋本〉には言葉聞書(注記)が記入されており、その後の諸本はすべてこの系統に属する。この安仁屋本は今次大戦で消失。明治の後期に恩河朝勇祐らが安仁屋本の写しを作り、仲吉朝助の手を経て伊波普猷に贈られたものを仲吉本と言い、当館に所蔵されている。(仲原善忠選集中巻及び沖縄大百科事典参照)

### 17-2 おもろさうし 第 1～22 巻(12 冊)

099.1

琉球王府編 仲原善忠写 12 冊 26cm 和 未稿原稿 年代不祥

「仲吉本」から仲原善忠自身が筆写したもの、いわゆる「仲原本」。「注」およびところどころ口語訳が付されている。

## 18. 奉使琉球始末 草稿之一部

092.4

松田道之著 明治8(1875)9枚 26cm 和 毛筆書

いわゆる琉球処分<sup>ほうしりゅうきゅうしまつ</sup>の経過を伝える文書の一つ。

明治政府の琉球処分の方針を伝達し、実施するために松田道之(内務大丞)が琉球に派遣された。松田は前後3回来琉して、琉球王府首脳の説得にあたっているのであるが、事は松田=明治政府の思う通りには運ばなかった。松田はその都度、琉球側との交渉の経過を政府に報告しているのであるが、のち、それらの関連文書を一書にまとめて、『琉球処分』を刊行している(全3冊、明治12年12月)。本書には琉球処分に関する明治政府の令達、松田による王府首脳への説諭および政府への復命書、琉球側の対応、さらに島内の動静を伝える記録などが収録されていて、琉球処分の内容・経過を知る上で、喜舎場朝賢の『琉球見聞録』とともに不可欠の基本文献である。

さて、ここに示した「奉使琉球始末」は、松田の第1回目の来琉(明治8年=1875年7月10日那覇着)の際に、王府側との交渉・説得に奔走した経過を伝える文書の草稿である。

「仲原善忠文庫」に収められている本文書について、仲原先生の筆跡と思われる朱書で表紙の裏に次のように記されている。「此ノ文書ハ廃藩置県ノタメ琉球ニ派遣セラレタル松田大丞ノ文書ノ控デアル、琉球処分中巻ニ第二十九号トシテ掲出サレテイル。(百四十九頁)末行ノ今般以下ハ、琉球側ノ口上手扣ヲ呈出シタモノデ、第三十号トシテ収録サレテイル(百六十四頁)」。

用紙がかなり痛んでおり、おそらく仲原善忠先生が入手された折に裏打ちさせたものであろう。ただ、その際先生は活字本の『琉球処分』によって、朱書で本文を補った箇所があるが、これは少しやりすぎと言はなければならない。加えて先生が付されたと思われる「P166」などは、活字本のページ数を示して、ご自分の研究のための参考にされたものと思われるが、実際には若干ページずれがあるようである。

また、本文書には仲原先生とは別人の筆跡による(おそらく本文書の筆者=松田自身?によると思われる)朱書が2か所(行数にして19行)、墨筆の本文の間に書き込まれていて、最終的に活字本の『琉球処分』に織り込まれる前の「草稿」であると推測される。

去った沖縄戦で多くの史料・文献が灰塵に帰した今日、このような当時を伝える生の記録が発見され、保存されていることは、たとえ不完全なものであっても、貴重な文化財というべきであろう。仲原先生をはじめ、沖縄研究の先人たちの史料収集に傾けた努力に、改めて敬意を表したい思いである。(法文学部教授 金城正篤)

# 仲原善忠文庫沖繩関係主要図書目録

1. 西南文運史論 / 武藤長平 : 岡書院 大15  
(1926) 14, 8, 図49枚 020.4-Mu93
2. 琉球文化史研究室文献目録 : ニューヨーク  
シラキユース大学 1964 025-H33
3. 琉球文献目録 -完全資料収集のための参考  
目録 / ハリング ダグラス・ジ 伊勢桃代  
: ニューヨーク シラキユース大学  
昭和38(1963) 025-H33
4. 琉球文献目録稿 / 国立国会図書館支部上野  
図書館 : 1952 025-Ko49
5. 南島文献資料目録1 / 成城大学民俗学研究  
室 : 昭和34(1959) 非売品 025-Se17
6. 矢内原忠雄先生講演集 -第三次研究中央集  
会記念- / 矢内原忠雄 : 沖縄教職員会編  
那覇 沖縄教職員会 1957 図1枚 041-Y54
7. 琉球小話 / 稲垣国三郎著 : 大阪 盛運堂  
昭和9(1934) 初版 321p 13×19cm 049-I52
8. 荒潮の若人 / 伊波南哲 : 大日本雄弁会講  
談社 昭和18(1943) 049.1-I25
9. 祭魚洞雑録 / 渋澤敬三 : 郷土研究社  
1933 図49枚 非売品 049.1-Sh21
10. うら紙草子 / 津軽照子 : 河北書房  
昭和17(1942) 図1枚 049.1-Ts36
11. 郷土博物館資料目録 -昭和11年7月4日開  
館- / 沖縄縣教育會附説郷土博物館 : 奥付  
なし 069-052
12. 清見寺文書 -尚公王子のこと等- / 仲原善  
忠 見里 朝慶 崎濱 秀明 : 昭和39(1964)  
091.6-Ki87
13. 漂到琉球国記 : 宮内廳書陵部 昭和37(1962)  
1巻 複製本 巻軸 箱入 092.1-H99
14. 君南風由来並位階且公事 / 仲原善忠 :  
昭和12(1937) 22枚 和 092.1-Ki41
15. 久米島具志川間切旧記 : 「仲原善秀写」  
昭和13(1938) 33枚 和 毛筆書 092.1-Ku37
16. 久米島仲里旧記 : 写 [元禄16年(1703)]  
47枚 和 表紙・奥付なし 092.1-Ku37
17. 宮古島旧記御嶽由来記 : 「写」(ペン書)  
和 奥付なし 092.1-Mi76
18. 宮古島舊史 附録南航日記 / 西村捨三 :  
奥付なし 092.1-N84
19. 薩藩舊記雑録 前編卷三 四 五 / 九州史料  
刊行会 : 福岡 九州史料刊行会 昭和31(1956)  
(九州史料叢書8) 非売品 092.1-Sa88
20. 舊記 首里 泊 那覇 唐栄 古城 久米島 馬齒  
山 葉壁山 宮古島之部 / 鄭秉哲 : 桑江克英  
校訂 屋良朝陳訓註 那覇 琉球王代文献頒布會  
昭和14(1939) 092.1-Te23
21. 喜安日記 全 / 喜安 : 那覇 琉球王代文献  
頒布會 [出版年代不明] 39枚 和 謄写本  
092.2-Ki11
22. 東汀随筆 / 喜舎場朝賢 : 球陽堂出版部  
昭和2(1927) 092.2-Ki55
23. 東汀随筆続篇 自第1回至第9回 / 喜舎場朝  
賢 : 昭和26(1951) 119枚 (和) 和紙 筆写本  
昭和二十六年(1951)三月廿一日写了 比嘉春潮  
092.2-Ki55
24. 遺老説伝 8 球陽外卷 / 鄭秉哲, 屋良朝  
陳, 池宮城秀栄 : 那覇 琉球堂書舗  
昭和18(1943) 和(琉球王代文献集第8輯) ガリ版  
刷 092.2-Te21
25. 球陽 1~5 / 鄭秉哲 等 : 那覇 国吉弘文  
堂 昭和8(1933) 和 092.2-Te21
26. 球陽外卷遺老説傳 / 鄭秉哲, 島袋盛敏  
: 學藝社 昭和10(1935) 図1枚 092.2-Te21
27. 重刻中山傳信録 卷1~6 / 徐葆光 : 皇都  
橋屋嘉助 (和)蘇門先生句読 平安 蘭園蔵板  
和紙 092.4-J66
28. 奉使琉球始末 草稿之一部 / 松田道之 :  
昭和8(1875) 9枚 和 毛筆書 092.4-Ma74
29. 支那冊封使来琉諸記 上 下卷 : [写] 元治  
元年(1864) 和 奥付なし ペン書  
092.4-Sh57
30. 琉球国志略 1~6 / 周 煌 : 翰林院 天保2  
(1831) 和 092.4-Sh99
31. 麻姓家譜 -西原写本- : 1959 和 奥付なし  
謄写印刷 092.5-Ma64
32. 向姓家譜-大宗 紀錄- : 90枚 和 奥付なし  
092.5-Sh95
33. 中山世鑑 全 / 向象賢 等 : 島袋全発校訂

- 那覇 国吉弘文堂 昭8(1933) 092.5-Sh96
34. 南島志 全 / 新井白石 : 42枚 (和) 和紙  
毛筆本 092.9-A62
35. 琉球国事略 / 新井君美 : 刊年不詳 14枚  
和 毛筆書 092.9-A62
36. 琉球奇譚 / 米山子 : 高橋写真製作所〔出  
版年不明〕 52枚 注 写真複写 092.9-B32
37. 南島紀事 / 後藤敬臣 : 石川治兵衛 明治  
19(1886) 榕陰書屋蔵版 092.9-G72
38. 沖繩志 一名琉球志 1~5巻 / 伊地知貞馨  
著 : 重野安釈校 石川治衛 明10(1878) 5冊  
(32図7 47 46 53 54) 和和紙 木版 有恒斎蔵  
版 092.9-I29
39. 沖繩志略 一名琉球志略 全冊 / 伊地知貞  
馨 : 重野安釈校 東京 伊地知貞馨 明治10  
(1878) 32枚 和 092.9-I29
40. 「漂到琉球国記」解題 : 奥つき  
092.9-H99
41. 琉球談 / 森嶋 中良 : 京都 起文堂  
〔寛政2〕 (1790) 1冊(50枚) 和 奥付なし  
092.9-Mo64
42. 琉球談 / 森嶋中良 : 日本橋 東都書肆 須  
原屋市兵衛 寛政2(1790) 45枚 (和) 和紙  
092.9-Mo64
43. 南島紀事外篇 乾 坤 / 西邨捨三 : 石川治  
兵衛 明治19(1886) 2冊(50 53枚) 和 榕陰書  
屋蔵版 和紙 毛筆書 092.9-N84
44. 琉球年代記 附録琉球雑話 / 太田南畝 :  
杏花園 天保3(1832) 30枚 (和) 天保三年秋  
杏花園蔵版 和紙 092.9-081
45. 琉球新誌 圖附上 下巻 / 大槻文彦 : 煙雨  
楼蔵版 明治6(1873) 和 毛筆書 092.9-089
46. 琉球雑記(上 下)附程順則伝 : 2冊(58 72  
枚)  
写真複製版 公爵 島津忠重氏所蔵 昭和五年9  
九月寫了と書いてある。 092.9-R98
47. 琉球往来 全 / 袋中 : 25枚 複写本(原本は  
東京大学所蔵本) 奥付なし 092.9-Ta21
48. 御教條 / 蔡温 : 評定所 雍正10(1732)  
33枚 和 奥付なし 093-Sa22
49. 辞令写 : 4枚 093.1-J53
50. 聞得大君加那志御新下日記 / 大里 間切 :  
道光20(1840)年 原稿 093.1-Ki22
51. 聞得大君御殿並御城御規式之御次第 : 同治  
14(1875)年 24枚 筆写本 093.1-Ki22
52. 田名文書 : 写 嘉靖15(1536)~道光30  
(1850) 30枚 田名文書の写真複写  
093.1-Ta83
53. 外務省機密文書1~4 / 外務省 : 明13  
(1880) 和 和紙毛筆 奥付なし 093.2-G15
54. 琉球備忘録 / 河原田盛美 : (内閣文庫)  
奥付なし 093.2-Ka96
55. 久米島仲里間切科人公事帳 : 乾隆53年完  
比嘉春潮写 昭29(1954) 7枚 和 原本仲原善秀  
氏所蔵より 比嘉春潮氏が騰写したもの  
093.2-Ku37
56. 琉球入貢紀略 全 / 鍋田三善 : 静幽堂 嘉  
永3(1850) 27枚 和 木版 鍋田三善の印あり・  
晶山は雅号 093.2-N11
57. 琉球聘使記 / 荻生徂来 : 「仲原善忠写」  
昭24(1949) 挿図9枚 和 毛筆書 093.2-025
58. 琉球処分提綱 / 大久保常吉 : 奥付なし  
093.2-054
59. 琉館筆譚 日本 石塚崔高 中山 揚 : 文 鳳  
093.2-R93
60. 琉球一件帳 : 1冊(59枚) 和 筆写(ペン)  
093.2-R98
61. 琉球処分 上 中 下 / 松田道之 : 奥付な  
し 093.2-R97
62. 琉球人行列記 : 薩州御出入方 京都書林  
菱屋弥兵衛 天保3(1832) 19枚 (和) 和紙  
093.2-R98
63. 琉球人行列附 嘉永3庚戌年11月 : 歌川重久  
画圖 東都芝神明前 若狭屋與市 嘉永3(1850)  
4枚(挿図) 和 093.2-R98
64. 琉球人行列附 天保癸辰年 : 歌川國芳画 江  
戸 大木屋平右衛門 天保3(1832) 4枚 和  
093.2-R98
65. 琉球人行列附 天保13年壬寅年11月 : 溪斎  
英泉画 江戸芝神明前 丸屋甚八 天保13(184  
2)  
折本 093.2-R98
66. 琉球人大行列記 来朝新板絵入 : 大阪 塩屋  
喜助 寛政8(1796) 19枚(図共) (和) 和紙  
093.2-R98
67. 琉球人大行列記 大全 来朝新板絵入 : 大阪  
日野屋半兵衛 明和元年(1764) 19枚 (和) 和  
紙 搜入 093.2-R98

68. 琉球人帰国に付国役金の記録-天保4年近江知行所より- : 16枚 和 毛筆書 093.2-R98
69. 琉球人就来府淀川筋船行列帳 但木津川より大阪御屋敷迄並其分一卷 : 1冊(15枚) 和紙 18×13cm 和紙毛筆書 093.2-R98
70. 琉球人来朝記 1~9 : 寛延元年(1748) 093.2-R98
71. 寶永七年 琉球人来聘 : 50枚 (和) 和紙 毛筆本 093.2-R98
72. 琉球冠船記録 慶応二年 六 : 43枚 写真複製版 公爵 島津忠承氏所蔵 昭和十年十一月鹿児島ニテ寫了と書いてある 093.2-R98
73. 琉球来聘志〔仮〕 : 天保13年(1842) 9枚 和 奥付なし 093.2-R98
74. 琉球薩摩往復文書案 : 文明6(1474) 43枚 青写真版 093.2-R98
75. 蔡温之自叙傳 : 蔡温「写」 40 和 ペン書 093.2-Sa23
76. 蔡温随筆集 : 蔡温 那覇 琉球史料研究会 1958 1冊(30枚) 和 093.2-Sa23
77. 中山聘使略 : 阪本純宅甫 天保壬辰(1832) 14枚 和 和紙 093.2-Sa32
78. 薩摩往復文書集 : 昭和34(1959) 4冊 (188枚 278枚 459枚) (和) 帙入 薩琉往復文書を写本したものであるが仲原善忠により琉球館文書と改題 昭和34年 盛夏 仲原善忠写 093.2-Sa88
79. 製糖取締旧慣内法 : 那覇糖商組合事務所 明治21(1888) 093.2-Se19
80. 校註 羽地仕置 / 向象賢 : 東恩納寛惇校註 興南社 昭和27(1952) 図1枚 093.2-Sh96
81. 沖縄法制史(二) : 東京税務監督局 内國税彙纂 第8号 昭和9(1934) 手書き 093.2-To46
82. 取調書 但一木書記官調査 : 但一木〔出版事項不明〕 奥付なし 複製版 093.2-To68
83. 大和江遣状 三 : 嘉慶20年(1815) 乙亥 帳小座 115枚 (青写真複製版) 093.2-Y45
84. 琉球状 : 屋代弘賢 7枚 和 帙入 奥付なし 093.2-Y61
85. 琉球館文書 第1冊 : 那覇 沖縄歴史研究会 1969 89枚 (沖縄歴史研究会テキスト) 写真複写 093.3-R98
86. 琉球館文書 第2冊 : 那覇 沖縄歴史研究会 1970 093.3-R98
87. 御財政 : 〔筆者 出版事項不詳〕 和 複製版 康熙61年(1722)の年号あり 雍正3年(1725) 御所帯賦があつた由 儀間真安日記がある由 (渡口氏) 093.4-G74
88. 本県地価ノ高キ理由調書 : 〔明29(1896)〕 19枚 和 毛筆書 093.4-H85
89. 貢納物品領収旧藩慣例並ニ置県後取扱順 : 〔明15(1882)〕 9枚 和 毛筆書 093.4-Ko76
90. 模合帳 一~二 : 波平村 光緒6(1880) 2冊 (127枚 224枚) (和) 和紙 毛筆本 帙入 093.5-Mo11
91. 模合帳 : 筆者 刊年不詳 和紙(2枚) 和 毛筆書 093.5-Mo11
92. 本琉球内久米仲里間切人数改帳 : 文政7 (1824) 5枚 和 毛筆記 奥付なし 093.7-H84
93. 沖縄旧慣地方制度 : 沖縄縣内務部第一課 那覇 1963 093.7-052
94. 教條 : 中山王府評定所 那覇 沖縄県郷土協会 昭和10(1935) 093.8-C69
95. 過眼掌記 琉球慶良間港造之 : 六癸酉四月中潮泊 和 和紙(7枚) 毛筆 月湾蔵 奥付なし 094-Ka19
96. 指南廣義 / 程順則 : 〔出版地 出版者 出版年不詳〕 61枚 和 095.5-Te23
97. 質問本草 内篇卷1・2 外篇卷1・2付録 / 呉子善 : 江戸 須原屋茂兵衛 天保8(1837)・ (内篇卷1 59枚 卷2 37枚 外篇卷1 48枚 卷2 57枚 附 28枚) 和 薩摩府學蔵版 奥付なし 和紙 095.9-G54
98. おもろさうし 第1~22卷(12分冊) / 琉球王府 : 和 毛筆書 099.1-R98
99. おもろさうし / 琉球王府 : 仲原善忠写 12冊 未稿原稿 099.1-R98
100. 思出草 蕉雨亭 / 識名盛命 : 道光3 (1823)年癸未3月 133枚 写真複製 099.2-Sh34
101. 薩琉軍談 1~3 : 筆者 年代不詳 3冊(28枚 18枚 34枚) 和紙 毛筆書 (和) 099.3-Sa88
102. 琉球人てまり歌 新版 : 嘉永4辛庚年 (1851) 1枚 和 099.5-R98
103. 崎山之御園一件 : 33枚 和 毛筆書 帙入 099.5-Sa42
104. 東遊草 卷之中 / 魏學賢 : 鮫島玄霧 黒

- 田恒校 東都書肆 天保15(1844) 25枚 和 毛筆書 099.3-G43
105. 貧家記 -THE GREAT LOOCHOO- / 平敷屋朝敏 : 奈良市 文化琉球人會 昭和22(1947) (月刊雜誌 大琉球 第6号) 099.7-H53
106. 中国冊封使渡来の時の正副使及従客と琉球詩人(学者)との唱和(詩) / 趙文楷 等 : 琉球 嘉慶5年(1800) 1巻 巻物 箱入 099.7-Sh95
107. 東遊草 卷之上, 卷之下 / 中山正儀 太夫現任儀衛正鄭元偉著 : 鮫島玄霧 黒田恒校 東京書肆 天保15〔1844〕 18枚, 16枚 (和) 和紙 和筆書 099.7-Te23
108. 四知堂詩稿 卷の1~3 / 楊文鳳 : 浪華 崇高書房 文化3(1806) 93枚 複製 俗名 嘉味田親雲上 099.7-Y72
109. 琉球古語辞典混驗集を中心として / 東恩納寛惇 : 昭和33(1958) 図2枚 拓殖大学論集 第16号(昭和33年4月25日) 抜刷 099.8-H55
110. 沖縄対話 上 下巻 / 沖縄縣學務 : 明治15(1882) 改正再版 奥附なし 099.8-052
111. 女官御双紙 上巻 / 琉球王府 : 御近習方 那覇 琉球史料研究会 1958 40枚 和 複製版 本史料は尚貞王世代清の康熙48(1709)年女官近習方により編さんされた王宮内諸行事の記録古文書である 原本は尚家本による・ 和紙 毛筆書 099.8-R98
112. 女官御双紙 1~3 / 琉球王府 : 御近習方 「仲原善忠写」 昭和13(1938) 和 和紙 毛筆 尚家本 099.8-R98
113. 沖縄善行美談 / 島袋源一郎 : 那覇 島袋源一郎 昭和6(1931) 図1枚 159.2-Sh35
114. 太陽崇拜管見 / 糸満盛信 : 京都女子高等学校・中学校研究紀要第8号 1962年11月 163.11-I91
115. 沖縄固有信仰のおとろえ / 仲原善忠 : 奥付なし 164-N33
116. 琉球神道記 / 袋中釋 加藤玄智 : 明世堂書店 昭和18(1943) 再版 181-Ta21
117. 琉球神道記 上下 / 袋中 : 和装本 帙入 181-Ta21
118. 琉球訳讀美歌 / 新垣信一 : 糸満町 ゴスペル社 1950 196.5-R98
119. 琉球文にて記せる最後の金石文 / 伊波普猷 : 考古学会 明37(1904) 「考古界」第4篇第6号収録 200.2-I25
120. 久松巨石墓発掘記録 / 稲村賢敷 : 発掘年月日 昭和33年11月4~6日 場所 沖縄宮古島 平良市字松原 200.2-I53
121. 琉球菝堂貝塚 / 松村瞭 : 東京帝国大学 大正9(1920) 図・第10図版 26c (東京帝国大学理学部人類学教室研究報告 第3編) 200.2-Ma82
122. 琉球崎樋川貝塚出土家犬に就て / 三宅宗悦 阿部興善 : 岡書院 昭和7(1932) 図1枚 (「人類学雑誌」第47巻第10号) 200.2-Mi76
123. 具志川村アカジャンガー遺跡調査概報 / 高宮広衛 : 那覇市 琉球政府文化財保護委員会 1960(昭35) 200.2-Ta43
124. 野国海岸発見の石器について / 高宮広衛 : 那覇 嘉数学園沖縄短期大学 1960 25c 沖大論叢第1巻第1号別刷 200.2-Ta43
125. 沖縄の石器時代 / 瀧口宏 : 日本書院 昭36(1961) 「歴史教育」第9巻第3号 200.2-Ta71
126. 琉球列島の貝塚分布と編年の概念 / 多和田真淳 : 那覇市 琉球政府文化財保護委員会 図 1956年6月「文化財要覧」抜刷 200.2-Ta97
127. 久米島謝名堂貝塚調査概報 / 友寄英一郎 : 1964 付 琉球関係考篇第8号抜刷 200.2-To62
128. 琉球関係考古学文献目録 / 友寄英一郎 : 小宮山書店 昭37(1962) 200.2-To62
129. 沖縄諸島の先住人民に就て / 鳥居龍蔵 : 考古学会 明38(1906) 「考古界」第4篇第8号抜刷 200.2-To67
130. 歴史年表 / 仲原善忠 : 自家製 1枚 日本・沖縄・中国を対照図にしたもの 200.3-N33
131. 童景集 / 東恩納寛惇 : 興南社 昭和27(1952) 図版 200.4-H55
132. 随筆 童景集 / 東恩納寛惇 : 新星堂 昭和11(1936) 20c 200.4-H55
133. 南島論攷 / 東恩納寛惇 : 実業之日本社 昭和16(1941) 200.4-H55
134. 琉球千草之巻 / 慶留間知徳 : 那覇 慶留間 勇 昭和37(1962) 再版 200.4-Ka59

135. 琉球と為朝 / 菊池幽芳 : 文禄堂書店 版 213-Sh63  
 明治41(1908) 図3枚 200.4-Ki24
136. 古代沖縄の姿 / 宮城真治 : 那覇 宮城真治 1954 200.4-Mi73
137. 南島論叢 / 島袋全発 : 那覇 沖縄日報社 昭和12(1937) 図版 伊波普猷氏還暦記念出版 200.4-Sh35
138. 琉球見聞録-一名廃藩事件- / 喜舎場朝賢 : 三秀舎(印制) 大正3(1914) 図版 240-I53  
 200.8-Ki45
139. 琉球史料叢書 1~5 / 横山重 東恩納寛惇, 伊波普猷 : 名取書店 昭和15~17 (1940~1942) 200.8-R98
140. 通俗沖縄郷土史 / 知念達雄 : サンパウロ(ブラジル) 知念達雄 昭和23(1948) 103, 図版 附国宝史蹟風景写真 201-C46
141. 「琉球処分」(1872年~1879年)の一考察 : 我部政男 「人文社会科学研究」3号抜刷 1964 201-G11
142. 沖縄歴史物語-日本の縮図 / 伊波普猷 : 沖縄青年同盟 昭和22(1947) 201-I25
143. カー博士“琉球史ヨリ引用” : (手紙 その他) 901-Ka19
144. 琉球見聞録 / 喜舎場朝賢 : 東汀遺著刊行会 昭和27(1952) 図版 201-Ki59
145. 琉球及東南諸海島興中国 / 梁嘉彬 : 台湾 東海大学 中華民國54(1965) 201-L61
146. 沖縄史に関するメモノート / 仲原善忠 201-N33
147. 中山世譜より メモノート / 仲原善忠 : 1冊 201-N33
148. 琉球史料 1~10集 / 琉球政府文教局 201-R81
149. 南方文化の建設へ / 幣原坦 : 富山房 昭和13(1938) 図版 201-Sh92
150. 日支交渉史話 / 秋山謙蔵 : 内外書籍KK 昭和10(1935) 図版 201.18-A38
151. 沖縄涉外史 / 東恩納寛惇 : 南方同胞援護会 昭和32(1957) 201.18-H55
152. 琉球と支那との関係 / 玉代勢法雲 : ホノルル マカレー東本願寺 1952 201.18-Ta79
153. 北山史話 / 新城徳祐 : 1957(昭和32) 図 288.2-Ki29
154. 琉球発祥史 / 新垣孫一 : 新垣孫一 1955 図版 234-A63
155. 久米島史話 / 仲原善忠 仲原善秀 : 潮音社 昭和15(1940) 図版 237-N33
156. 琉球諸島における倭寇史跡の研究 / 稲村賢敷 : 東京 吉川弘文館 昭和32(1957) 240-I53
157. 宮古史伝 / 慶世村恒任 : 那覇 南陽印刷 1955 図版 240-Ki87
158. 八重山群島の古代文化-宮良博士の批判に答う- / 金関丈夫 : 「季刊民族学研究」第19巻第2号 250-Ka48
159. 八重山歴史 / 八重山歴史編集委員会 : 1954 250-Y14
160. 与那国島誌 / 池間栄三 新里和盛 : 与那国 池間栄三 1957 図版 254-I33
161. 奄美大島に於ける家人の研究 / 金久好 : 名瀬市史編纂委員会 昭和38(1963) 260-Ka43
162. 喜界島調査資料 第2 / 高木一夫 : アチックミュージアム 昭和14(1939) 図版 260-Ka21
163. 大奄美史-奄美諸島民俗誌 / 昇曙夢 : 鹿児島 奄美社 昭和24(1949) 図版 260-N91
164. 奄美大島史 / 坂口徳太郎 : 鹿児島 三州堂書店 大正10(1921) 図版 260-Sa28
165. 布哇首里市人会拾周年記念誌 / 布哇首里市人会 : ホノルル 昭和15(1940) 図版 280.3-H45
166. 沖縄県人事録 / 沖縄朝日新聞社 : 那覇 昭和12(1937) 図版 280.3-052
167. 琉球人姓名書 寛政2年 : 6枚 和装本 毛筆書 和紙 280.3-R98
168. 琉球の五偉人 / 伊波普猷 真境名安興 : 那覇 小沢書店 大正5(1916) 図版 280.4-I25
169. 系図のてびき / 新垣孫一 : 1958 288.2-A63
170. 琉球祖先宝鑑 / 慶留間知徳 : 那覇 琉球史料研究会 昭和37(1962)再版 288.2-Ke59
171. 巫馬姓-元祖国頭里主- / 喜久里教文 : 具志川村 喜久里教文 昭和13(1938) 288.2-Ki29

172. 麻氏先塋志 / 渡口真清 : 那覇 麻氏門中  
会 昭和33(1958) 和装本 288.2-To21
173. 糸嶺家伝 / 糸嶺篤義 : 奥付なし  
288.3-I91
174. 伊波普猷先生の生涯とその琉球学 / 金城  
朝永 : 「民族学研究」 第13巻第1号  
(日本民族学協会編) 1948(昭和23) 289-I25
175. 島津斉彬言行録 / 島津齋彬 : 岩波書店  
昭和19(1944) 図版 289-Sh46
176. 尚泰侯実録 / 東恩納寛惇 : 櫛引成太 大  
正13(1924) 侯爵尚家蔵版 289-Sh96
177. バジル・ホオル・チエンバレン先生追悼記  
念録 : 国際文化振興会 昭和10(1935) 125,  
図版 289.3-C33
178. 南西諸島における親族称呼とその分布構造  
—社会地理学的研究 / 小川徹 :  
「法政大学文学部紀要」 7第2部 1961 抜刷  
290.1-024
179. 「今帰仁上り」の拝所・旧跡 / 郷土の文  
化を守る会 : 奥付なし 290.2-Ky2
180. 沖縄県治要覧 / 沖縄県 : 警眼社 大正10  
(1921) 図版 290.3-052
181. 琉球 / 沖縄県教育会同人 : 那覇 小沢朝  
蔵 大正14(1925) 図版 290.3-052
182. 南島風土記 / 東恩納寛惇 : 沖縄文化協会  
昭和25(1950) 図版 290.34-H55
183. 沖縄県人物風景写真帖 / 仲宗根源和 :  
昭和8(1933) 290.38-N42
184. 沖縄写真帖 第1輯 / 坂口総一郎 : 首里  
坂口総一郎 大正14(1925) 290.38-Sa28
185. 沖縄県琉球国首里旧城之図 : 嶂山查不烈  
1枚 複製 290.38-Sh96
186. 琉球その後 / 鳥越憲三郎 : 東京 朝日新  
聞社 昭和30(1955) 290.38-To67
187. 思い出の沖縄 / 新崎盛珍 : 那覇 新崎先  
生著書出版記念会 1976 図版 290.4-A65
188. 琉球之研究 / 加藤三吾 : 早川孝太郎校訂  
文一路社 昭和16(1941) 図版  
290.4-Ka86
189. 移りゆく沖縄のすがた / 宮城栄昌 : 文  
民書房 昭和35(1960) 図版 290.4-Mi73
190. 八重山群島学術調査報告 / 大阪市立大学  
八重山学術調査隊 : 昭和38(1963) 図版  
290.4-073
191. 琉球 / 沖縄県教育同人会 : 沖縄出版会  
昭和41(1966) 再版 図版 290.9-052
192. 珊瑚の島-奄美諸島の記録 / ペリかん写真  
文庫編集部 : 平凡社 1957(昭和32)  
290.9-P42
193. 南島探験 / 笹森儀助 : 笹森儀助 明治27  
(1894) 図版8枚 290.9-Sa76
194. 沖縄案内 新版 / 島袋源一郎 : 真和志村  
島袋源一郎 昭和17(1942) 図版 290.9-Sh36
195. 薩摩と琉球 / 横山健堂 : 中央書院 大正  
3(1914) 図38枚 290.9-Y79
196. 大琉球島航海記 / BasilHall : 須藤利一  
訳 那覇 琉球新報社 1955 再版 図版13枚  
地図2枚  
原書名:Account of Voyage of Discovery to  
the West Coast of Corea, and the Great  
Loochoo island. 290.99-H83
197. ペルリ提督遠征記 / 大羽綾子 来国合衆  
国海軍省 : 酣燈社 昭和22(1947) 図1枚  
290.99-P42
198. ペルリ提督琉球訪問記 / 神田精輝 : 北  
新町(大分県) 神田精輝 大正15(1926) 図44枚  
新見吉治先生序文 伊波普猷先生序文  
290.99-P42
199. ペルリ提督日本遠征記1~4 / 土屋喬雄,  
玉城肇 : 岩波書店 昭和28・30(1953・195  
5)  
(岩波文庫) 290.99-P42
200. 対訳ペリ一提督沖縄訪問記 / 外間政章  
: 那覇 外間政章 1962 図44枚  
(民芸叢書第2篇) 290.99-P42
201. 沖縄県国頭郡志 / 島袋源一郎 : 国頭郡教  
育会編 再版 琉球郷土史研究会 昭和31  
(1956) 図11枚 291-Sh37
202. 万次郎漂流記 / 鈍通子記録 : [出版事項  
なし]16p 18×12cm 和紙 291.9-Na
203. 沖縄-八重山- / 滝口宏 : 校倉書房 昭和  
35(1960) (図共)  
(早稲田大学考古学研究室報告第7冊)  
295-Ta71
204. 沖縄問題解決に御援助御願い / 沖縄諸島  
日本復帰期成会 : 昭和35(1960) 奥付なし  
302-052
205. 沖縄からの報告 / 瀬長亀次郎 : 岩波書



- 店 昭和34(1959) (岩波新書353) 302-Sa57
206. 久米島事情 : 和 奥付なし 302.3-Ku37
207. 日米開戦当時のイヌ物語 / 賀数箸次 :  
〔出版社・発行年不明〕 304-KA24
208. 琉球帰属論 / 琉球経済社 : 1951  
(琉球経済第10号特集) 310.4-R98
209. 日本復帰論 : 那覇 沖縄出版社 〔1951〕  
世論週報特集号 312-N77
210. 沖縄問題に関する最近の米紙の論調 / 南  
方同胞援護会 : 奥付なし 312-052
211. 沖縄県政五十年 / 太田朝敷 : 国民教育  
社 1932 図版5枚 312-081
212. 女人政治考-人類原始規範の研究- / 佐喜  
真興英 : 岡書院 大正15(1926) 図1枚  
312-Sa27
213. 太平洋の孤児-米国統治下の琉球- / 高  
嶺明達 : 沖縄通商KK 1952 図版2枚  
312-Ta43
214. 沖縄における人権問題-米国自由人権連盟  
報告書- : 南方同胞援護会 奥付なし  
316.6-B16
215. 通航一覧 第1 / 林 ■ : 国書刊行会 明治  
45(1912) 319.02-H48
216. 南島村内法-民の法の構成素因・目標・積  
層- / 奥野彦六郎 : 法務府法制意見第四局  
1952 (法務資料第320号) 320.9-056
217. 沖縄の人事法制史と現行人事法改正管見  
/ 奥野彦六郎 : 〔出版地不明〕 昭和5  
(1930) 図2枚 (司法研究第14輯・司法省調査  
課報告書集3) 奥付なし 322-056
218. 校訂沖縄法制史 / 大蔵省主税局 : 金城朝  
永校訂 山岡書店 昭和28(1953) (貴重資料復  
刊叢書内国税彙纂8号) 和 帙入 騰写本  
322-057
219. 沖縄軍用土地問題の成果 / 南方同胞援護  
会 : 昭和33(1958) 323.98-N48
220. 沖縄住民の国際法的地位 / 桑田三郎 :  
南方同胞援護会 1959 329-Ku98
221. 沖縄経済事情 / 田村浩 : 南島社 大正14  
(1925) 図1枚 (南島叢書第1編) 332-Ta82
222. 南島経済記 / 下田将美 : 大阪屋号書店  
昭和4(1929) 図21枚 附・朝鮮 332.2-Sh51
223. 鳥島移住始末 / 斉藤用之助 : 大正9  
(1920) 騰写印刷 334.4-Sa25
224. 南島通貨志の研究 前編 / 東恩納寛惇 :  
図2枚 出版事項不詳 337.2-H55
225. 中世琉球に於ける錢貨の流通に就いて /  
小葉田淳 : 史学地理学同好編 京都 星野書  
店・昭和8(1933)  
(歴史と地理第31巻第3号) 337.2-Ko11
226. 旧藩中租税徴収ニ関スル事項 : 明治27  
(1894) 表1枚 和 奥付なし 345.2-Ky8
227. 沖縄県旧慣租税制度 : 明治28(1895) 和  
奥付なし 345.2-052
228. 薩藩天保度以後財政改革顛末書 / 海老原  
雍斎 : 改造社 大正15(1926)  
(近世社会経済叢書第4巻本庄榮治郎等編)  
附:鹿兒島藩租額事件 349.2-E14
229. 沖縄県税制改正ノ急務ナル理由 : 〔出版  
事項不明〕 奥付なし 349.2-054
230. 沖縄県統計書 第3編 昭和6 7 12年 / 沖縄  
県 : 那覇 三星社印刷 昭和8,9,14(1933-  
1939) 350.59-052
231. 琉球共産村落の研究 / 田村浩 : 岡書院  
昭和2(1927) 図27枚 序:八田三郎 362-Ta82
232. 琉球古代社会の研究 / 鳥越憲三郎 : 三笠  
書房 昭和19(1944) 362-To67
233. 資料琉球労働運動史 自1945年至1953年 /  
琉球政府労働局 : 1962 図2枚 366.6-R98
234. 沖縄女性史 / 伊波普猷 : 小澤書店 大正  
8(1919) 図1枚 367.2-I25
235. ハワイに於ける沖縄被服救済運動の動機と  
その記録 / 安里貞雄 : ハワイ 安里保険事  
務所 1964 369.2-A88
236. 労農露西亞新教育の研究 / 仲宗根源和  
: 弘文社 大正14(1925) 372.38-N42
237. 沖縄県地誌略 / 沖縄師範学校 : 明治17  
(1884) 1冊(38枚) 地図1枚 和 沖縄県蔵版  
375.39-052
238. 龍文 / 沖縄県師範学校附属小学校 : 首里  
〔稻垣國三郎〕 大正10(1921) 図2枚 非売品  
376.2-052
239. 離島の幸福・離島の不幸・名瀬だより /  
島尾敏雄 : 未来社 1960 図4枚  
380.4-Sh44
240. 南島覚書 / 須藤利一 : 東都書籍 昭和  
19(1944) 380.4-Su14
241. 沖縄文化叢説 / 柳田国男 : 中央公論社

- 昭和22(1947) 380.4-Y53  
 242. 海上の道 / 柳田国男 : 筑摩書房 昭和  
 37(1962) 図2枚 380.4-Y53  
 243. 南島 第一輯~第三輯 / 野田裕康 : 台北  
 南島発行所 昭和15~19(1940~1944)  
 380.5-N48  
 244. 南島談話 第2号, 第4号 : 南島談話会 昭  
 和6,7(1931-1932) 隔月発行 380.5-N48  
 245. 南島研究 創刊号 : 南島研究会 昭和40  
 (1965) 320.5-N48  
 246. 最近における沖縄研究概観 / 日本民族学  
 協会 : 1950 380.5-N77  
 247. 沖縄研究資料 第1集 : 沖縄人連盟総本部  
 昭和23(1948) 380.5-052  
 248. 島-昭和九年前期- / 柳田國男, 比嘉春潮  
 : 「島」発行所 昭和9(1934) 図2枚  
 380.5-Sh35  
 249. 南島探訪記 / 本田安次 : 明善堂書店 昭  
 和37(1962) 図10枚 382-H48  
 250. 久米島紀行 昭和12年自2月10日至同19日  
 / 比嘉景常 : 44,14枚 謄写印刷 382-H55  
 251. 南方文化の探究 / 河村只雄 : 創元社 昭  
 和14(1939) 382-Ka95  
 252. 続南方文化の探究-薩南琉球の島々- /  
 河村只雄 : 創元社 昭和17(1942) 図10枚  
 382-Ka95  
 253. 沖縄風俗図会 : 那覇 琉球史料研究会 昭  
 和39(1964) 図  
 (風俗画報臨時増刊) 復刻版 382-052  
 254. 南島説話 / 佐喜真興英 : 郷土研究社 大  
 正11(1922) (爐邊叢書) 382-Sa42  
 255. シマの話 / 佐喜真興英 : 郷土研究社 昭  
 和11(1936) (爐邊叢書) 382-Sa42  
 256. 沖縄の婚姻-奥野彦六郎氏の稿本を読み  
 て / 瀬川清子 : 彰考書院 昭和24(1949)  
 民族学研究第13巻第3号(日本民族学協会編)  
 382-Se16  
 257. 山原の土俗 / 島袋源七 : 郷土研究社 昭  
 和4(1929) 図16枚 382-Sh35  
 258. 海南小記 / 柳田國男 : 大岡山書店 大正  
 14(1925) 382-Y53  
 259. 南島雑話 / 永井竜一 : 鹿児島 白塔社  
 昭和8(1933) 160枚 和 謄写刷 382.6-N14  
 260. シマの生活誌-沖永良部島探訪記- / 野  
 間吉夫 : 三元社 昭和17(1942) 図3枚  
 382.6-N94  
 261. 奄美群島とポリネシア南方文化の研究 /  
 茂野幽考 : 南方文化研究所 昭和3(1928)  
 図4枚 附録:戯曲・西班牙傳教時代 徳富蘇峰  
 先生題詩・加藤咄堂先生序文 382.6-Sh29  
 262. 沖縄の聚落と民家に就いて / 川勝健二  
 : 4枚 「建築と社会」昭和11年4月号31~38p  
 の切抜 383-Ka94  
 263. 南嶋入墨考 / 小原 一夫 : 筑摩書房 昭和  
 37(1962) (図共) 図2枚 383.7-027  
 264. 足入れ婚と其の周辺 / 大間知篤三 : 民  
 俗学研究所 昭和35(1960)  
 (民俗学研究第一輯別刷) 386.4-061  
 265. 沖縄の民話 / 伊波南哲 : 未来社 1958  
 (日本の民話11) 388-I25  
 266. おきのえらぶ昔話 / 岩倉市郎 : 民俗学  
 研究所編 古今書院 昭和30(1955) 290, 図  
 388-I93  
 267. 南の昔話 / 喜納緑村 : 学而書院 昭和11  
 (1936) 388-Ki41  
 268. 琉球民族とその言語-金関教授の臆脱批判  
 / 宮良當壮 : 日本民族学協会 昭和29(1954)  
 「季刊民族学研究」第18巻第4号より抜刷  
 389-Mi81  
 269. 沖縄の社会と宗教 / 東京都立大学南西諸  
 島研究委員会 : 平凡社 1965 図1枚  
 389.1-To46  
 270. 算用抜-古琉球算法書- / 須藤利一 : 古  
 典数学書院 昭和11(1936) 75枚 和 ガリ版刷  
 419-Su14  
 271. 琉球古来の数学 / 矢袋喜一 : 宝文館 大  
 正4(1915) 図4枚 419-Y49  
 272. 沖縄の時計と暦 / 岡田芳朗 : 月刊「時  
 計」第7巻第8~9号(1962)印刷 449-038  
 273. 琉球人の人類学的研究 人類学雑誌 第45巻  
 第5号附録 / 金関丈夫 : 木田半之丞編 岡茂  
 雄 昭和5(1930) (附) 図1枚 469-Ka48  
 274. 琉球人の人類学的研究(第二報告) / 金関  
 丈夫 : 岡書院  
 (人類学雑誌 第47巻第8号) 469-Ka48  
 275. 琉球国頭郡運天に於て得たる現代沖縄人人  
 骨の人類学的研究 / 金高勘次 : 東京人類学  
 会 昭和4(1929)

- (人類学雑誌 第44巻第8号) 469-Ka54
276. 琉球の種痘 / 金城清松 : 那覇 琉球史料研究会 昭和38(1963) (肖像1枚) 491.8-Ki45
277. フィラリア症とその集団治療—沖縄のフィラリア対策のために— / 三井源蔵 : 南方同胞援護会 昭和38 (1963) 493.88-Mi64
278. 御膳本草 / 渡嘉敷通寛 : 那覇 當間清弘 1961 天保3年(1832)編作されたものの複製 499.8-To28
279. 琉球-建築文化- / 伊東忠太 : 東峰書房 昭和17(1942) 図5枚 520.4-I89
280. 旧琉球藩ニ於ケル糖業政策 全 / 安次富松蔵 : 天野鉄夫謄写 1957 謄写本 588.1-A92
281. 本邦糖業史 / 樋口弘 : 味燈書屋 昭和18 (1943) 588.1-H56
282. 鹿児島県大島郡糖業一斑 : 明治14(1881) 奥付なし 588.1-Ka19
283. 沖縄県糖業論 / 仲吉朝助 : 古在由直 本田幸介校閲 那覇 嘉数詠清 明治40(1907) 588.1-N45
284. 沖縄の産業 / 比嘉春潮 : (日本産業史大系九州地方篇抜刷) 出版事項不詳 602-H55
285. 琉球の地割制度 上 中 下 / 仲吉朝助 : 富山房 昭和3(1928) 「史学雑誌」第参拾九編第五号~第六号まで 611.2-N45
286. 南島の原山勝負制の構成—南島労働推進史— / 奥野彦六郎 : 農林省農業総合研究所 昭和30(1955) (農業総合研究所刊行物第126号) 611.75-056
287. 昆陽先生甘藷の由来 / 渋谷周蔵 : 埼玉 埼玉甘藷商同業組合 大正15(1926) 図1枚 非売品 617.1-Sh22
288. 琉球重要樹木誌 / エグバト・H 和嘉 : 琉球列島米国民政府 1954 背表紙: Important Trees of the Ryukyu Islands 英文の説明あり 650.3-W36
289. 杣山制度論 / 仲吉朝助 : 那覇 向春印刷 1952 表2枚 651.1-N45
290. 林政八書 / 蔡温 立津春方 : 東京図書 昭和12(1937) 651.1-Sa23
291. 黎明期の海外交通史 / 東恩納寛惇 : 帝國教育會出版部 昭和16(1941) 682-H55
292. 琉球の文化 / 式場隆三郎 : 昭和書房 昭和16(1941) 304, 図10枚 750.9-Sh34
293. 南海古陶器 / 伊東忠太 鎌倉芳太郎 : 寶雲舎 昭和12(1937) 1冊(図版) 751-I89
294. 琉球の陶器 / 柳宗悦 : 昭和書房 昭和17 (1972) 751-Y52
295. 琉球漆器考 / 石澤兵吾 : 東陽堂 明治22 (1889) 図版25枚 沖縄県庁御蔵版 752-I84
296. 「琉球染色に就きて」 / 鎌倉芳太郎 : 啓明會事務所 昭和3(1928) 図3枚 753-Ka31
297. 沖縄染物裂地の研究 / 田中俊雄 田中玲子 : 明治書房 昭和27(1952) 753-Ta84
298. 琉球乃音楽 / 山内盛彬 : 琉球の音楽出版部 1950 英文の説明あり 761-Y46
299. 湛水親方の名譽のために / 仲原善忠 : 6枚 奥付なし 762-N33
300. 音楽 譜附 湛水流 -工工四 全- / 中村孟順, 世禮國男 : 那覇 湛水流音楽研究会 1958 762-N37
301. 琉球音楽の概説 / 山内伶晃 : 昭和22 (1947) 附:学説 邦楽(其他)旋法の新見解要項—五度構成論— 762-Y39
302. 琉球の音楽芸能史 / 山内盛彬 : 民俗芸能全集刊行会 1959 (図共) (民俗芸能全集1) 762-Y46
303. 琉球王朝古謡秘曲の研究(抜萃) / 山内盛彬 : 昭和39(1964) 手書出版 762-Y46
304. 琉球三味線寶鑑 / 池宮喜輝 : 東京 沖縄藝能保存會 昭和29(1954) 1冊(図版) 非売品 768.11-I33
305. 沖縄方言の言語年代学的研究 / 服部四郎 : 誠文堂新光社 昭和30(1955) 「季刊民族学研究 第19巻第2号」 (日本民族学協会編修) 800-H44
306. 琉球方言の動向 / 外間守善 : 国語学会編 武蔵野書院 1960 4枚 (国語学41 特集-琉球106~114pまで抜刷) 800-H82
307. 琉球語便覧 附琉語解釈 / 伊波普猷, 糖業研究会出版部 : 1916 123p 800-I23
308. 南島方言史攷 / 伊波普猷 : 楽浪書院 昭和9(1934) 800-I25
309. 標準語対照沖縄語の研究 / 桑江良行 :

- 那覇 崎間書店 昭和29(1954) 図2枚  
800-Ku95
310. 南島叢考 / 宮良當壯 : 一誠社 昭和9  
(1934) 図6枚 800-Mi81
311. 院政貴族語と文化の南展—序説舜天皇は安  
徳天皇か— / 奥里將建 : 大阪 三協社 昭和  
29(1954) 800-058
312. 古代語新論 / 奥里將建 : 三省堂 昭和  
18(1943) 800-058
313. 南島方言資料 / 東條操 : 刀江書院 昭和  
5(1930) 図共 奥付けには東條操著とある  
800-To27
314. 日本語系統論 / 奥里將建 : 京都 古代文  
化研究会 昭和32(1957) 810.29-058
315. ティダの語源 / 龜井孝 : 宝文館 昭和  
37(1962) 山田孝雄追想史学語学論集抜刷  
820-Ka34
316. 日本・沖縄の古代史文献に見る印欧語的要  
素—入部を中心として— / 城間正雄 : 11枚  
820-Sh89
317. 那覇方言概説 / 金城朝永 : 三省堂 昭和  
19(1944) 図1枚 833-Ki44
318. 探訪南島語彙稿 / 宮良當壯 : 郷土研究  
社 大正15(1926) 840-Mi81
319. 琉球人の見た古事記と萬葉 / 奥里將建  
: 那覇 青山書店 大正15(1926) 840-058
320. 八重山語彙 附:八重山語總説 / 宮良當壯  
: 東洋文庫 昭和5(1930)  
(東洋文庫叢刊第2) 845-Mi81
321. 八重山語彙 附:八重山語總説 / 宮良當壯  
: by Yokohama, Kelly & Walsh, 1895.  
850-CH
322. 琉球方言 : 那覇 琉球方言研究クラブ  
〔季刊〕 880-R98
323. 沖縄語辞典 / 国立国語研究所 : 大蔵省印  
刷局 昭和38(1963) (地図共)  
(国立国語研究所資料5) 883.1-Ko49
324. 琉球・宮古島方言比較音韻論 / 崎山理,  
国語学会 : 武蔵野書院 1963 7枚  
(国語学54 特集-語彙6~21pまで抜刷)  
884-Sa42
325. 琉球与那国方言の研究 / 平山輝男, 中本  
正智 : 東京堂 昭和39(1964) 図4枚  
付録:ソノシート青 885-H69
326. 喜界島方言集 / 岩倉市郎 : 中央公論社  
昭和16(1941) 886-I93
327. 奄美に生きる日本古代文化 / 金久正 :  
刀江書院 昭和38(1963) 図1枚 886-Ka45
328. 琉球文学 / 小野 重朗 : 弘文堂書房 昭和  
18(1943) 図1枚 900-067
329. 琉球文学研究 / 田島利三郎, 伊波普猷  
: 那覇 青山書店 大正13(1924) 図1枚  
900-Ta26
330. 琉球聖典おもろさうし選釋—オモロに現は  
れたる古琉球の文化— / 伊波普猷 : 首里  
石塚書店 大13(1924) 図3枚 911-I25
331. 沖縄 口承文芸 / 仲原善忠 : 奥付なし  
911-N33
332. おもろのふし名索引—おもろさうしの基本  
的研究第2集— / 仲原善忠 : 沖縄文化協會  
昭26(1951) 911-N33  
(沖縄文化研究叢書第2集)
333. おもろ新釈 / 仲原善忠 : 那覇 琉球文教  
図書K.K 昭32(1957) 図3枚 911-N33
334. 演奏用分類解説琉歌集 / 池宮喜輝 : コ  
ザ(沖縄) 池宮喜輝 1963 図1枚 913-I33
335. かじゃてい風考 / 照屋寛善 : 1963 奥付  
なし 913-Te79
336. 古今琉歌集 / 富川盛睦 : 那覇 琉球史料  
研究会 1956 1冊(63cm) 和  
この古今琉歌集は、初版を小橋川朝昇氏が出版  
し、富川盛睦氏が明治28年再版、今回3回目で、  
底本は再版本による。 913-To53
337. 琉歌集全 / 屋良朝陳 : 奈良 文化琉球  
人会 昭22(1927) 謄写本 913-Y59
338. 琉球古民謡おほんしゃれ節の研究 / 伊波  
普猷 : 昭10(1935)  
(民族學研究第1巻第4號) 914-I25
339. 琉球と奄美民謡 / 上別府操 : 南島民謡  
研究会 昭30(1955) 914-R98
340. 沖縄童謡集 附那覇固有の遊戯 / 島袋全  
發 : 一誠社 昭9(1934) 図3枚 914-Sh36
341. 八重山古謡 第2輯 / 宮良當壯, 宮良長包  
: 郷土研究社 昭5(1930) 914.5-Mi81
342. 奄美大島民謡大観 / 文潮光 : 名瀬(鹿児  
島県) 南島文化研究社 昭8(1933)  
914.6-B89
343. 山之口猿詩集 / 山之口猿 : 山雅房 昭15

- (1940) 917-Y38 32(1957) 4版 930-Sh51
344. 苔の下-三まく七ば- / 平敷屋朝敏 : 東京  
 沖縄芸能保存会 第15回芸術祭参加秋期公演用  
 台本 920-H53 352. 琉球秘史劇巴旗乃曙 附普天満権現琉球王  
 代記略表 / 屋良朝陳 : 奈良 文化琉球人會  
 昭22(1947) 再版 図2枚 930-Y59
345. 校註琉球戯曲集 / 伊波普猷 : 春陽堂  
 昭4(1929) 図1枚 920-I25 353. 死生の門-沖縄戦秘録- / 古川成美 :  
 中央社 昭24(1949) 図2枚 續沖縄の最後  
 950-F93
346. 琉球戯曲辭典 / 伊波普猷 : 郷土研究社  
 昭13(1938) 920-I25 354. ひめゆり部隊 / 石野径一郎 : 出版東京  
 昭27(1952) 図4枚 950-I79
347. ペルリ提督と琉球-戯曲- / 川平朝申 :  
 奥付なし 920-Ka11 355. 沖縄の悲劇-姫百合の塔をめぐる人々の手  
 記 / 仲宗根政善 : 華頂書房 昭26(1951)再版  
 図3枚 950-N42
348. 長虹堤異聞-琉球史劇- / 屋良幾久枝 :  
 奈良 文化琉球人會 昭21(1946) 謄写印刷  
 920-Y59 356. 沖縄健児隊 / 大田昌秀, 外間守善 : 日本  
 出版協同K・K 昭28(1953) 図4枚 950-081
349. 愛の村-沖縄救癩秘史- / 三浦清一 : 鄰友  
 社 昭18(1943) 930-Mi67 357. 沖縄戦秘史-島田知事- / 浦崎純 : 那覇  
 沖縄出版社 1951 950-U84
350. 祖国なき沖縄-戦後沖縄の真相- / 沖縄  
 県学生会 : 日月社 昭29(1954) 図2枚  
 930-052
351. 沖縄島 / 霜多正次 : 東京 筑摩書房 昭

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

## 仲原善忠先生略年譜

\*この略年譜は、仲原善忠選集下巻より抜粋して、作成しました。

1890年(明治23年)

沖縄県久米島仲里村(当時は仲里間切)字真謝(当時は真謝村)で、父仲原善久、母なへの三男として生まれる。(7月15日)

父善久は29才で村の掟(ウッチ:村頭)を勤めていた。屋敷は二面が石垣を積みめぐらしてあることから「石垣」という屋号を持っていた。

1896年(明治29年)6才

島尻郡久米島真謝尋常小学校入学

1900年(明治33年)10才

尋常小学校を卒業。4年間通じて毎年1番の成績を修め百田紙二包の褒美を貰う。久米島尋常高等小学校へ入学。

1904年(明治37年)14才

久米島尋常高等小学校を卒業。卒業成績も1番で通す。

沖縄県立中学校入学(後の一中)

学資金がなく勉強もできず、授業は代数、英語に苦しめられた。

1905年(明治38年)15才

家計の都合で中学を退学する。農業の傍ら、役場の筆耕(料金を取って字を写す)を勤めた。

1906年(明治39年)16才

津波と台風が久米島を来襲、翌年大飢饉に見舞われる。

1908年(明治41年)18才

沖縄県立師範学校入学。上里朝秀、高里良恭、山内盛彬氏などが入学し、生涯の友情を結ぶ。

師範学校では、受験成績1番で合格し、予科、本科とも常に1、2番で通した。

1912年(明治45年)22才

沖縄県立師範学校を卒業、同年小禄尋常小学校訓導となる。

1913年(大正2年)23才

広島高等師範学校入学、同期に呉屋朝賞(後の第2代琉球大学学長)がいた。

1915年(大正4年)25才

天妃小学校の訓導だった与儀信と結婚

1917年(大正6年)27才

広島高等師範学校本科地理歴史科卒業。この頃の友人に、作家で経済学者の南条範夫がいた。広島高師時代は良師に恵まれ、図書館に入りびたりの生活を送る。成績は1番から4番くらいの間を上下した。

同年3月、静岡県立静岡師範学校訓導兼教諭になる。2年目に教諭兼舎監、3年目に「静岡教育」編輯主任となる。

1920年（大正9年） 30才

青島中学校（チンタオ）中学校教諭として赴任

この頃渋川玄耳主宰の俳句会に加わる。俳号を「幽月」といった。

1923年（大正12年） 33才

青島中学校（チンタオ）中学校を退職し、帰郷する。

同年鹿児島県立第一師範学校教諭となる。

1924年（大正13年） 34才

鹿児島県立第一師範学校を退職する。

同年私立成城学園第二中学校教諭となる。

1925年（大正14年） 35才

同学園成城高等学校教諭となる。

1927年（昭和2年） 37才

同学園中学部主任及び会計課長となる。

この頃、比嘉良篤氏（沖縄財団理事長）と知りあう。

1928年（昭和3年） 38才

同学園教授を兼ねる。この年5月、文部省の委嘱を受けて、欧米各国の地理、歴史の教育を視察し、翌年2月帰朝する。

1929年（昭和4年） 39才

同学園中学部長となる。

1931年（昭和6年） 41才

東京文化書房より「世界地理精義」を出版。

1932年（昭和7年） 42才

大同館より「理法探求日本地理精説」を出版

1934年（昭和9年） 44才

改造社地理講座に「琉球」篇を執筆。

1940年（昭和15年） 50才

成城学園より出張を命ぜられて、北支、中支の教育視察に出向く。

同年実弟善秀と共に「久米島史話」を出版。

1941（昭和16年） 51才

明治大学講師となる。

12月 太平洋戦争勃発。長男静一郎東京帝国大学独文科を繰り上げ卒業し、17年2月1日静岡中部第三部隊入隊。昭和18年、次男哲（東京帝国大学工科）、三男文夫（東京帝国大学独文科）学徒出陣、四男寛（千葉医科大学）航空隊に入隊。

1943（昭和18年） 53才

「かがり糸」〈おもろさうしの基本的研究第1集〉なる。

「久米島史話」の前後から、郷土沖縄への学問的関心が次第に成長し開花しはじめていた。

その最初の成果がこの「かがり糸」である。おもろに関する本文批判、研究批判の構想は  
だいたいこの時期に成ったものであろう。

1946年(昭和21年) 56才

成城学園高等学校を退職する。

戦後、伊波普猷先生の後をうけ沖縄人連盟の会長となる。

連盟三ヶ年、戦時中に九州地区に強制疎開の学童や一般疎開者、軍需工場の外地からの引揚者の援護、戦没者の遺骨の送還など文字通り東奔西走の苦勞をする。

1947年(昭和22年) 57才

「沖縄文化叢説」に柳田国男氏らと共に「セヂの信仰について」を執筆。沖縄における古代信仰の中核に迫る論文として、柳田国男氏に絶賛される。

1948年(昭和23年) 58才

比嘉春潮、金城朝永、島袋源七氏らと「沖縄文化」を創刊する。

同誌2号より「おもろ評釈」と題して精力的に新しいオモロ研究の成果を発表、  
3巻1号より「おもろの研究」と改題して、4巻11号まで連載する。

1950年(昭和25年) 60才

雑誌「おきなわ」〈1巻2号〉に「沖縄文化の過去と将来」を発表。

雑誌「民俗学研究」〈15巻2号〉に「おもろの研究＝おもろ研究の方向と再出発」発表。

1951年(昭和26年) 61才

「おもろふし名索引」〈おもろさうしの基本的研究第二集〉を刊行する。

1952年(昭和27年) 62才

雑誌「おきなわ」〈18号〉に「沖縄現代政治史」及び「沖縄現代産業経済史」を発表。

社会科の教科書として、琉球文教図書(株)より「琉球の歴史」上巻を刊行する。

この頃、「おもろさうしの辞典と総索引」の著作に着手する。

1953年(昭和28年) 63才

「琉球の歴史」下巻を刊行する。

1954年(昭和29年) 64才

琉球育英会理事になる。

「おもろさうし辞典・総索引」作成の協力者として外間守善氏参加。

1955年(昭和30年) 65才

この頃「注記・君南風由来並び位階且公事(稿本)なる。

1957年(昭和32年) 67才

琉球文教図書(株)より「おもろ新釈」を刊行。

沖縄文化協会機関誌「沖縄文化」「文化沖縄」(仮称)に「おもろ評釈」「おもろの研究」として発表した論文に、その後の研究成果を合せてまとめたものである。  
独創的、かつ科学的な見解が傾注され、オモロ研究史上、画期的な著述である。

1958年(昭和33年) 68才

琉球育英会東京事務所長を兼任する。

1959年(昭和34年) 69才



「岩波講座日本文学史」〈16巻〉「琉球の文学」を担当執筆。

平凡社「日本民俗学大系」〈12巻〉に「沖縄の民俗—口承文芸」、「沖縄の民俗—太陽崇拜と火の神」、「沖縄の民俗—固有信仰のおとろえ」、「沖縄の民俗—集落」を執筆。

南方同胞援護会評議員に任命される。

1961年（昭和36年） 71才

沖縄文化協会機関誌「沖縄文化」を外間守善氏とともに復刊。

ハワイ大学東西文化センターの招きを受け客員教授として渡布。

1962年（昭和37年） 72才

ハワイで「官生小史—中国派遣琉球留学生の概観」〈稿本〉なる。

ハワイより帰国。外間守善氏と「校本おもろさうし」及び「おもろさうし辞典と総索引」の完成に全精力を注ぐ。

「校注・仲里旧記」〈稿本〉、「校注・具志川間切旧記」〈稿本〉を完成。

1963年（昭和38年） 73才

沖縄タイムスに「砂糖の来歴」（4月10日～5月25日）を発表する。

1964年（昭和39年） 74才

11月25日、永眠する。

## 仲原文庫受入経過概要

年月日	事項及び説明
1965年	
6月	南連事務局長より図書館長へ仲原文庫について「南連で購入して沖縄へ援助として送るから琉大は控えてほしい」と要望があった。
1966年	
3月	図書館長より外間守善助教授へ仲原文庫の必要性について問い合わせがあり、「国文学科で是非必要ならば(受入)の交渉を進めて欲しい」と依頼があった。 " 外間助教授より仲原信夫人へ琉大への譲渡を依頼
4月	仲原信夫人より仲宗根政善教授(国文学科)に書簡があり、「琉大が必要なら蔵書を譲渡しても良い」と返事があった。
6月13日	外間政善、中山盛茂、赤嶺康成、仲松弥秀、富村真演、外間守善各教官へ(学長より)図書評価委員を委嘱
6月21日	学長へ図書評価委員会報告書を提出(仲原文庫の評価額を\$8,000とする)。
7月2日	国立大学図書館長会議の帰途、宮城館長、仲原家(東京世田谷区在)を訪問。蔵書価格\$10,000の申出を比嘉良篤氏(沖縄財団)の協力を得て\$8,000で合意
7月3日	宮城館長、アジア財団(在東京)を訪問。仲原文庫購入費\$8,000の中、\$2,000の援助を要請。
7月	アジア財団、仲原文庫購入費\$2,000の援助を承認。
9月7日	購入費\$8,000の為替を持参して、仲原文庫受領のため、山田勉(受入管理係長)、石川清治(参考司書)氏出張(ひめゆり丸にて)
9月22日	通産省より輸出承認及び無為替輸出承認。
9月23日	日本通運東京晴頭支店に送付方依頼する。
11月5日	仲原文庫入荷。
1967年	
6月29日	国立大学図書館長会議の帰途、平良恵仁氏(図書館事務長)、仲原家を訪問し、下記の貴重資料の寄贈を受けた。 ①久米仲里旧記、②君南風由来并位階且公事(写本)、③具志川間切旧記(原稿複写、 ④仲里旧記について(原稿複写)、④君南風由来并位階且公事について(原稿)、⑤新聞切抜、パンフレット、ノート等

山田勉氏報告(図書館年報1967年所収)参照

# 仲原善忠文庫貴重資料展

## 講演会

講師： 琉球大学法文学部教授 池宮正治氏

演題： 仲原善忠の沖縄研究

日時： 平成10年11月7日（土）  
午後2時より3時まで

会場： 琉球大学附属図書館1階多目的ホール

## 編集後記

「仲原善忠文庫」は、故仲原善忠氏の遺志に従い、昭和41年(1966)に東京世田谷在住の信夫人からの「沖縄の学徒、研究者に役立てたい」というご厚意により実現しました。入手までの経緯は次の通りです。

昭和41年(1966)3月、外間守善助教授より信夫人へ譲渡のお願いをしたところ、4月に信夫人より仲宗根政善教授宛書簡があり、琉大で必要なら譲渡してもよいという返事がありまして、その準備が進められました。図書の評価を行なうため、文理学部当時の仲宗根政善教授、外間守善助教授を始め、中山盛茂、仲松弥秀、富村真演教授等に図書評価委員を依頼しまして、仲原文庫の評価を行いました。譲渡に必要な経費は大部分が大学の経費で支出、不足分はアジア財団から援助してもらうことにより、仲原善忠文庫は同年11月5日に琉球大学に譲渡されました。信夫人から宮城館長(当時)宛の書簡には、「あちらこちらから譲渡の申込がありましたが、仲原の蔵書を分散したくないので、琉球大学で一括保管して頂ければ譲渡したい」と記されていました。

蔵書の冊数は2,372冊で一般図書と沖縄関係資料に分けられますが、内容は多岐にわたっており、特に沖縄関係資料は展示案内小冊子に記載されている通り、多くの貴重な資料があります。今回この中からオリジナルに近いものを18点展示しています。

今回の展示は会場の都合上、一部の紹介しかできませんが、概要及び解説を通じて仲原善忠文庫についての理解の一助になれば幸いです。

展示会の開催に当って学内の教官から多大なご協力を頂きました。法文学部の池宮正治教授からは、展示資料の選定及び仲原文庫の概要についての玉稿を頂き、展示資料の解説については池宮正治教授の他に法文学部の金城正篤教授並びに高良倉吉教授、教育学部の阿波根直誠教授にご協力を頂きました。また阿波根直誠教授からは解説文の他に、「白い煙と黒い煙」が記載されている教科書の写しを提供して頂きました。

ここに厚くお礼申し上げます。

なお、仲原善忠文庫の展示と併せて、琉球王府時代の八重山宮良家(頭職の一つ)に代々伝わる「宮良殿内文庫」の古文書、宣教師プール師が撮影した大正期沖縄の風俗写真、本学風樹館所蔵の沖縄の珍しい動植物等を、電子情報(画像)で公開しています。

資料展示委員会

仲原善忠文庫貴重資料展  
— 沖縄の歴史とおもろ —  
(第6回資料展)

1998年11月2日

編集 琉球大学附属図書館資料展示委員会

発行 琉球大学附属図書館

〒903-0214

沖縄県中頭郡西原町千原1番地

Tel 098-895-2221 (代表)